

令和 3 年度

社会福祉法人 若楠

事業報告書

目 次

本部	p 3～ 8
----	--------

- I 法人の運営概要
- II 理事会・評議員会及び監事の監査状況
- III 職員研修・福利厚生事業
- IV 入札を伴う契約及び随意契約
- V その他法人主催行事

若楠療育園	p 9～23
-------	--------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 地域社会との交流
- V 総務

若楠児童発達支援センター	p 24～27
--------------	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況

若木園	p 28～37
-----	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 保健衛生
- V 食事班
- VI 地域支援
- VII 地域社会との交流
- VIII 総務

青葉園	p 38～46
-----	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 生産型活動における生産品等、販売実績
- V 医務
- VI リハビリテーション
- VII 栄養課
- VIII 青葉ホーム
- IX 地域との交流
- X 総務課

どんぐり村	p 47～51
-------	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- VI 地域社会との交流
- V 総務

グリーンファーム山浦	p 52～60
------------	---------

- I 運営の概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 地域社会との交流
- V 総務

もしもしネット	p 61～64
---------	---------

- I 障害者就業・生活支援センター事業の実施
- II 研修等の受講
- III その他
- IV 総括

本 部

I 法人の運営概要

令和3年度は、前年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大が脅威となり、法人では感染対策及び協力体制の構築を図りクラスターを防止することができた。また、そのような状況下ではあったが、感染対策を講じた上で、法人行事、研修等を行い人材育成にも取り組んだ。

事業としては、法人理念のもと、利用者・保護者・職員の満足度を高める運営の在り方を実践し、社会福祉法人に求められる公益性にも柔軟に対応できる法人であるために、本部組織をより重層的な体制とした。さらに、仕事の要は人材であることから、職員の処遇を適宜見直し、雇用の安定に努めるとともに、法人理念を根幹とする人材確保と職員採用、並びに働きやすい職場づくりの推奨及びメンタルヘルス室の活用促進を行い、離職防止・健康増進に取り組んだ。

法人全体として、福祉を取り巻く環境が変化する中で、「法人若楠の基本理念」からぶれることなく、地域に貢献する笑顔あふれる施設として、健全な運営・サービスの向上を行うことができた。

II 理事会・評議員会及び監事の監査状況

1 理事会の開催

第1回 理事会

日時 令和3年5月28日（金） 午後1時00分より

場所 若楠療育園 会議室

理事出席者 6/9名 監事出席者 1/2名

議題 第一号議案 令和2年度事業報告並びに決算
第二号議案 令和3年度補正予算案
第三号議案 定款変更
第四号議案 理事及び監事候補者の選定
第五号議案 評議員選任・解任委員の選任
第六号議案 施設設備等整備事業
第七号議案 定時評議員会の日程

第2回 理事会

日時 令和3年6月11日（金）

場所 若楠療育園 プレイホール 午後4時20分より

理事出席者 8/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 理事長の選定
第二号議案 業務執行理事の選定

第3回 理事会

日時 令和3年9月6日（月）

場所 若楠療育園 プレイホール 午後3時00分より

理事出席者 7/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 定款変更
第二号議案 諸規程の改正
第三号議案 評議員会の日程

第4回 理事会

日時 令和3年9月28日（金）
場所 若楠療育園 プレイホール 午後1時00分より
理事出席者 6/8名 監事出席者 2/2名
議題 第一号議案 役員の辞任について

第5回 理事会

日時 令和3年9月28日（金）
場所 若楠療育園 プレイホール 午後2時45分より
理事出席者 6/8名 監事出席者 2/2名
議題 第一号議案 会長の選定
第二号議案 諸規程の改正

第6回 理事会

日時 令和3年10月21日（木）
場所 若楠療育園 会議室 午後2時00分より
理事出席者 6/8名 監事出席者 2/2名
議題 第一号議案 理事長の選定
第二号議案 業務執行理事の選定
第三号議案 理事候補者の選定
第四号議案 施設設備等整備事業
第五号議案 評議員会の日程

第7回 理事会

日時 令和3年12月3日（金）
場所 若楠療育園 プレイホール 午後3時00分より
理事出席者 7/8名 監事出席者 2/2名
議題 第一号議案 令和3年度予算執行状況
第二号議案 令和3年度補正予算案
第三号議案 諸規程の改正
第四号議案 評議員選任・解任委員の選任
第五号議案 青葉ホーム山浦の移管について
第六号議案 放課後等デイサービス（空飛ぶ木馬）の休業及び保育所等訪問支援事業の開始について
第七号議案 施設設備等整備事業
報告事項
・令和3年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導結果通知書「若楠療育園」
・令和3年度社会福祉法人指導監査の結果について

第8回 理事会

日時 令和4年3月4日（金） 午後3時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

理事出席者 7/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 令和3年度予算執行状況
第二号議案 令和3年度補正予算案
第三号議案 令和4年度事業計画案
第四号議案 令和4年度予算案
第五号議案 定款変更
第六号議案 理事候補者の選定
第七号議案 評議員選任・解任委員会への評議員候補者の推薦
第八号議案 諸規程の改正・制定
第九号議案 施設設備等整備事業
第十号議案 評議員会の日程
報告事項
・ 保育所等訪問支援事業の開始時期の変更について「若木園」
・ 災害救助犬訓練施設の設置について「どんぐり」
・ 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告

第9回 理事会

日時 令和4年3月29日（火）

場所 若楠療育園 プレイホール 午後3時00分より

理事出席者 8/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 業務執行理事の選定
第二号議案 諸規程の改正・制定

2 評議員会の開催

定時評議員会

日時 令和3年6月11日（金） 午後3時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

評議員出席者 9/10名 理事出席者 8/9名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 令和2年度事業報告並びに決算
第二号議案 令和3年度補正予算案
第三号議案 定款変更
第四号議案 理事及び監事の選任
第五号議案 諸規程の改正

評議員会

日時 令和3年9月28日（金） 午後2時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

評議員出席者 7/9名 理事出席者 6/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 定款変更
第二号議案 諸規程の改正
第三号議案 役員辞任について

評議員会

日時 令和3年11月8日（月）
書面決議
議題 第一号議案 理事1名の選任

評議員会

日時 令和4年3月18日（金）
書面決議
議題 第一号議案 定款変更
第二号議案 理事1名の選任

3 評議員選任・解任委員会の開催

評議員選任・解任委員会

日時 令和4年3月15日（火） 午前10時00分より
場所 若楠療育園 応接室
評議員選任・解任委員出席者 3/3名 理事出席者 1名
議題 第一号議案 評議員1名の選任

4 監事の監査

第1回監査（令和3年5月26日）

令和2年度決算内容及び各施設の諸帳簿、財務諸表等の監査（令和2年度決算最終監査）
法人全体の令和2年度における預金通帳、諸帳簿、入園者の処遇及び預り金等の監査

Ⅲ 職員研修・福利厚生事業

1 職員研修

新採用職員研修

日時 令和3年4月2日（金） 午前8時30分から午後2時50分まで
場所 若楠療育園 プレイホール及び各施設（Zoom開催）
内容 職員の心得・法人理念・福祉制度・メンタルヘルスケア等

1年経過者職員研修

日時 令和3年4月23日（金）、30日（金） 両日とも午後1時から午後4時10分まで
場所 若楠療育園プレイホール
内容 法人理念、職員の心得、先輩からのメッセージ、自己目標の発表

主任等研修

日時 令和3年7月2日（金） 午後1時20分から午後3時30分まで
場所 若楠療育園プレイホール
内容 理事長講話、常務理事講義「主任へ期待すること」

課長等研修

日 時 令和3年7月27日（火） 午前11時30分から午後3時30分まで
場 所 どんぐり村
内 容 会長講話、どんぐり村園長講義「みらいどんぐり村30年への想い」

働き方研修

Web 講義

内 容 講義「社会福祉の仕事に携わるということ」

2 運営

令和3年度中間業績報告会

日 時 令和3年10月29日（金） 午後2時から午後4時50分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 法人若楠の運営方針・各施設の令和3年度事業中間報告

令和4年度事業計画説明会

日 時 令和4年3月25日（金） 午後1時30分から午後4時45分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 法人若楠の運営方針・各施設の令和4年度事業計画発表

3 福利厚生

職員健康診断

期 日 令和3年9月6日（月）～10日（金）、9月14日（火）
検査項目 35歳以上 生活習慣病健診 35歳未満 定期健診
対 象 者 511名（受診者365名・他病院146名）

夜勤者健康診断

期 日 令和4年3月14日（月）、3月16日（水）、3月18日（金）
検査項目 一般健診
対 象 者 夜勤者157名（若楠療育園51名・若木園29名・青葉園77名）

コーワパークホテル湯布院倶楽部利用券発行 利用促進の案内(随時)及び利用券の配布

4 メンタルヘルス室

人材確保のためのフォローの一環として、周知と利用促進を重点的に行った。

(1) 相談業務

<月別職員メンタルヘルス相談数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	10	39	44	34	20	26	25	50	25	26	21	18	338

※月平均利用者数 27.3人

※新規採用者面談 1回目：39名（前年度末～10月） 2回目：35名（11月～12月）

※高ストレス者面談 2名

＜メンタルヘルス相談延べ人数推移＞

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
利用者数	79	38	92	77	254	406	338

※各施設担当者と打合せのうえ実施。利用は順調であったが、新型コロナウイルス感染症対策のための交流禁止等もあり、昨年度よりは減少した。

(2) 研修会

＜法人全体＞

- ・メンタルヘルス講習会 新人研修「オリエンテーション」
- ・メンタルヘルス講習会 新採後6ヶ月研修「働き方研修」

＜各施設＞

- ・青葉園 安全衛生委員会研修「エッセンシャルワーカーの強み」
- ・若木園 主任、リーダー研修「ディスカッション」
課長研修「ディスカッション」
- ・どんぐり村 全体研修「精神疾患について」
全体研修「障害者施設で大切にしたいことを考える」
- ・グリーンファーム山浦 就労支援グループ研修会
「コミュニケーションについて学ぼう」

IV 入札を伴う契約及び随意契約

入札を伴う契約・・・該当なし 随意契約・・・該当あり

V その他法人主催行事

令和3年4月1日（木） 新年度会（入社式）
令和3年5月6日（木） 第44回創立記念式典（永年勤続者表彰、理事長賞表彰）
令和4年1月4日（火） 新年挨拶の会

若楠療育園

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

若楠療育園は社会福祉法人若楠の基本理念のもと、各事業における支援の質の向上を図りながら、コロナ禍での感染予防対策を徹底した上で、できる限り入園・在宅利用者のニーズに応えるよう努めた。

（1）感染予防対策の強化

新型コロナウイルス感染予防のための対策をすべての部署で徹底し、園内で感染者が発生した場合に対しても備えた。

（2）適正な人員配置を維持し、各種個別支援計画のもと、快適で安全なサービスを実施

適正な人員配置を保ちながら、利用者一人ひとりの状況に応じた良質かつ安心していただけるサービスの提供を行った。

（3）短期入所事業の受入れ

短期入所事業では、引き続き医療的ケア児等在宅支援事業を受託したが、前年に引き続き新型コロナウイルスの状況を見極めながら受け入れを行い、受入れ数は前年より微増した。

（4）外来診療数

受診者総数は前年より増加したが、新型コロナウイルスの影響は続いている。

II 利用者の状況

1 年齢

（1）療養介護・医療型障害児入所（入所）

年齢	20歳未満	20～39歳	40～59歳	60歳～	合計
男	3	12	8	15	38
女	2	9	15	16	42

※措置児(20歳未満)5名含む

（2）生活介護（通所）

年齢	20歳未満	20～39歳	40～59歳	60歳～	合計
男	0	16	1	0	17
女	3	6	4	0	13

(3) 児童発達支援（重心）

年齢	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
男	0	0	0	0	0	1	1
女	0	0	2	0	0	0	2

(4) 放課後等デイサービス（重心）

年齢	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	合計
男	0	1	2	0	0	3	6
女	0	0	1	1	1	0	3

Ⅲ 事業の実施状況

1 医療部

(1) 医療課（外来）

①外来受診者総数（表1）

受診者総数は15,849人から16,086人と237人増加した。月平均受診者は1,405人。新型コロナウイルスの影響は続いており、流行前の元年度と比較すると-3,671人。3年度から外来リハビリ利用者（理学療法、作業療法、言語訓練の合計）を別項目とし、利用者総数のべ7,392人、月平均616人であった。

②小児発達外来（検査、診断、心理、リハビリ、投薬など）の受診状況（表2）

新患は290人で昨年度比+73人と増加。発達外来の総受診数は、2年度はリハビリの中断期間があったため元年度比-1,821人であったが、3年度は2年度比+1,088人と回復傾向が見られる。

③その他診療科の受診状況（表2）

- ・小児科一般診療は昨年度比-185人と減少。小児科では新型コロナウイルス感染の流行以降、院内感染のリスクを避けるため発熱者の診療を感染状況に応じて制限している（かかりつけの患者を除く）。
- ・精神科は昨年度比+168人と増加。青葉園、若木園入所以外では青葉ホームの受診者が408人と多い傾向がある。

④保険外診療の受診状況（表3）

- ・予防接種は261人の減少。全国的な日本脳炎ワクチンとおたふくかぜワクチン不足、ワクチン外来枠の変更などが要因と思われる。
 - ・3年度はインフルエンザ予防接種の一般向け接種は行わなかった（入荷数減少のため）。
 - ・3年度は新型コロナワクチン接種を1,936人に行った。
- ※一般健診は法人他施設利用者（入園者含）、新採健診、職員健診、保育園入園前健診の合計

＜表 1．外来受診者総数＞

	青葉園入所	若木園入所	法人職員	リハビリ	その他外来	合計
2 年度	2,128	1,366	487	含→	11,868	15,849
3 年度	1,980	1,436	254	7,392	5,024	16,086

＜表 2．診療科別外来受診状況＞

	小児科	発達外来	精神科	内科	皮膚科	リハ科	合計
2 年度	1,211	9,586	3,447	250	305	78	14,877
3 年度	1,026	10,674	3,615	251	450	70	16,086

＜表 3．保険外診療＞

	一般健診	乳児健診	予防接種	インフル予防接種	新型コロナワクチン
2 年度	370	74	1,084	1,127	
3 年度	365	59	823	754	1,936

(2) リハビリテーション課

①安全で継続しうるリハビリテーションサービスの提供

- ・施設基準に基づいた入園者、在宅利用者への理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）を実施した。
- ・感染対策のため、「入園リハビリ」「外来リハビリ」「地域支援」「児童発達支援」の4つの業務分担体制を構築した。

②教育機関、行政機関へのニーズ対応

- ・県内在住の希望者、通所事業所、教育機関（学校、幼稚園、保育園）に対して「外来相談」「訪問相談」「講師派遣」を行った。
- 「出前講座」は各 PT・OT・ST が講義資料を作成し教育機関へ講義を行った。

③法人内施設ニーズへの対応

- ・摂食評価ニーズについては言語聴覚療法（ST）が動画や訪問相談にて対応した。
- ・福祉用具作製相談にて密に連携しスムーズなニーズ調整と管理を行った。

④専門性の研鑽

- ・担当分野を明確化。オンラインアプリを用いての園内勉強会を開催。
 - (PT)「疼痛」「呼吸」「小児運動発達」
 - (OT)「日常生活動作」「福祉用具」「発達障害の検査」
 - (ST)「摂食嚥下」「ソーシャルスキル」

(3) 歯科

①診療実績

- ・実患者数(3,834名)とのべ患者数(4,196名)は、それぞれ前年度比105.4%、105.1%であった。
- ・他施設からの紹介患者は77名であった。
- ・全身麻酔は54名に実施した。

②保険収入

- ・前年度比101.7%(4,324,982点)であった。

③研究活動・学会発表等

《歯科医師》

- ・第38回日本障害者歯科学会学術大会(オンライン)において症例発表。
- ・第32回日本老年歯科学会学術大会(オンライン)において研究発表の共同演者。

《歯科衛生士》

- ・歯科衛生士(久保 栞)が園内研究発表会において研究発表。

④書籍執筆等

- ・永末書店「歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版」の分担執筆。

⑤資格取得等

《歯科衛生士》

- ・歯科衛生士(寶亀 幸子)が公益社団法人日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士(認定分野B:障害者歯科)を取得。

⑥地域への貢献、その他

- ・歯科衛生士学校への講師として歯科医師1名を派遣した。(3校:九州医療専門学校・佐賀歯科衛生専門学校・久留米歯科衛生専門学校)
- ・佐賀県歯科医師会主催「障がい者歯科保健推進研修会」(オンライン)で歯科医師1名が講演を行った。
- ・佐賀県歯科医師会主催「笑顔とお口の健康づくり手帳活用研修会」(オンライン)で歯科医師1名が講演を行った。
- ・徳島県歯科医師会主催「障がい者(児)歯科医療対応力向上研修会」(オンライン)で歯科医師1名が講演を行った。

<令和3年 歯科受診者状況>

(のべ患者数)

	若楠療育園	青葉園	若木園	一般外来	職員	合計
R1年度	739名	1,206名	269名	1,911名	44名	4,169名
R2年度	663名	1,284名	167名	1,814名	65名	3,993名
R3年度	750名	1,210名	244名	1,941名	51名	4,196名
前年比	113.1%	94.2%	146.1%	107.0%	78.5%	105.1%

＜令和３年 他施設からの紹介の状況＞

	開業歯科医 院	佐賀整肢学 園・歯科	久留米大学 病院歯科口 腔医療セン ター	聖マリア病 院・歯科	その他	合計
R 1 年度	27 名	3 名	3 名	2 名	2 名	37 名
R 2 年度	22 名	17 名	4 名	1 名	8 名	52 名
R 3 年度	38 名	21 名	15 名	0 名	3 名	77 名

(4) 栄養課

①栄養管理・入園者の食事（1日昼現在）

＜食種別人数の変化＞

令和３年４月 入所 80 名		令和４年３月 入所 80 名	
常食 (糖質に配慮した食事含) (経管栄養併用含)	50 (1) (3)	常食 (経管栄養併用含)	50 (3)
幼児食	2	幼児食	2
減塩食	0	減塩食	0
糖尿病食	0	糖尿病食	0
脂質異常食	1	脂質異常食	1
膵臓食	1	膵臓食	1
消化食	0	消化食	1
		ゼリー食	1
離乳食	1	離乳食	1
胃ろうペースト食	2	胃ろうペースト食	2
経管栄養	18	経管栄養	16
経管栄養（昼なし）	5	経管栄養（昼なし）	4
絶食	0	絶食	1

＜食形態別人数の変化＞

	常食	荒刻食	刻み食	ソフト食	ミキサー食	胃ろう ペースト食	その他
令和３年 ４月	14	5	18	10	10※	2	
令和４年 ３月	14	5	18	10	10※	2	1

※幼児食・離乳食含

②地域支援・児童発達の昼食数

事業名	月平均食数
生活介護	207
児童発達	68（発達 47、重心 21）
託児所	177

事業名	年間延べ数
日中一時	朝 7 昼 163 夕 63
短期入所	朝 95 昼 135 夕 87

（５）薬局

- ・外来の調剤数は減少。今年度も感染症の流行はみられず、感染症の患者が占める割合の多い小児科外来は患者数減少。外来コロナ対策である外来受診者制限や、自発的な病院離れの影響は大きい。コロナに直接影響がない小児神経系医薬品（コンサータ、メラトベル等）の処方 は年々増加している。
- ・療育園の調剤数は減少。定期薬の服用方法の変更により用法が整理（一括）され、調剤数のカウントの仕方が変わったため、減少している。
- ・薬の入荷困難な状況は続いている。処方に影響が出ないように在庫を増やし、流通状況を把握しながら在庫管理をしている。処方中止せざるを得ない薬も出ている。

<各施設の調剤数>

	若楠療育園	青葉園	若木園	グループホーム	一般外来	合計
令和元年度	13,830	10,710	5,130	1,032	9,100	39,802
令和２年度	13,272	10,329	5,148	1,101	7,643	37,493
令和３年度	11,733	9,559	5,260	1,129	7,154	34,835

（６）放射線

- ・直近の３年間は件数の変化はみられない。

<エックス線撮影件数>

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
802 件	773 件	686 件	680 件	684 件

＜令和３年度 X線検査総数＞

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計
撮影室 ・ ポータブル	胸部	50	121	121	36	9	24	6	11	5	4	26	17	430
	腹部	1	3	1	3			1	1	2	2			14
	軀幹骨			2		1	1	1		2	1	3		11
	四肢骨	2		3	2	1	2	2		4	5	1		22
	全脊椎				2	1	2		1	1		3		10
	PEG・MT交換	7	6	11	9	6	11	10	5	5	14	5	7	96
	骨塩定量				14	5	20	1			2	15	20	77
	パノラマ	3		2	1	4	2	1		2	2	1	1	19
	小計	63	130	140	67	27	62	22	18	21	30	54	45	679
透視室	PEG・MT交換		1				2				1	1		5
総計		63	131	140	67	27	64	22	18	21	31	55	45	684

２ 入所支援部

（１）看護課

①10 対 1 看護体制の継続と看護・介護サービスの向上

- ・10 対 1 看護体制は継続することができた。新採看護師 3 名が入職、プリセプター教育を実施し、園内研究発表と重心看護の気付きへとつなげることができた。
看護・介護実習は受け入れを中止。オンラインを活用し、医療・看護面の情報を発信した。
- ・入園者 1 名が重症化により、看取りを行った。また急変で 1 1 月に一人亡くなられた。新規入園者は在宅から 1 名と同法人施設から重症化で 1 名、昨年と同様に関係事業所と連携を図った。
- ・研修は主にオンライン研修に参加。ケアの「実践・根拠」を抑えた看護記録の書き方、重心施設の看護師研修、問題解決向上、重心学術集会でコロナ時代の重症心身障害と福祉を学び、委員会で情報を発信できた。
- ・看護記録委員会ではSOAP記録の継続とラダー教育、看護マニュアルの見直しに取り組んだ。

②短期入所事業と居宅系サービスの充実

- ・登録者 41 名 ・新規契約者 0 名 ・年齢層 9 歳～52 歳
- ・年間延べ利用人数 99 名（昨年度比 17 名増）
- ・1 日あたり平均利用者数 0.55 名 ・緊急受け入れ（ロングショート） 1 名
- ・アクシデント 6 件 ・苦情 1 件
- ・新型コロナウイルス感染対策として利用制限は継続中であるが、一部見直しを行い

感染対策にご協力頂きながら、二泊三日利用を可能とした。しかし、主たる介護者の入院等の事情を考慮し、園長許可のもと、利用回数や日数の制限を解除し、柔軟に対応した。

- ・生活棟職員やその家族にコロナ陽性者及び濃厚接触者の発生に伴い、急なお断りをした場合もあった。しかし、利用者の皆様にご理解とご協力を頂きながら、苦情等に至ることもなく、情報の取り扱いには注意しつつ安心してご利用いただけるよう、サービスを提供することができた。
- ・利用中、制約された環境の中で少しでも楽しく過ごして頂けるよう DVD・CD プレイヤーを購入し、余暇時間の充実を図った。
- ・夜間、利用者の所在が一時的に不明になるというアクシデントが発生した。そこで、動作センサーを購入し、職員配置が少なくなる時間帯にも安全に過ごして頂けるように対策をとった。
- ・短期入所予約方法にメールでの申し込みを導入し、利用者の利便性を図ると共に、生活棟スタッフの電話対応の負担軽減を図った。

③感染防止・医療安全対策の強化

- ・報告書の電子化の運用が確立しデータ管理がスムーズになった。その結果として、インシデント報告から、上半期（3月－8月 9 5 件）下半期（9月－2月 6 1 件）「介護・支援に関する場面」は減少傾向、薬剤やチューブ類に関する場面が高くなった。医療行為も個別化、複雑化しているため業務の見直しが必要で、業務教育を取り入れる必要がある。レベル3で骨折の報告が2件あがり事例の概要と経過を報告した。また改善事例が必要と判断した場合は再度報告を行った。来年度は週カンファレンスを行い、事故の要因をより深め改善につなげて行きたい。
- ・感染対策では、コロナウイルスワクチン接種が始まり希望する入園者・法人職員に安心・安全に摂取して頂ける準備と対応を行った。副反応と考えられる症状は認められたが悪化することなく経過した。年間を通して新型コロナウイルス対策、職員の外出・外泊等の届け出を作成するなど、状況の把握と発信に努めた。
- ・手指消毒指標を作り、各部署のアルコール使用量を数値化した。また、オゾン機械、空気清浄機を導入した。このことはノロウイルス・インフルエンザ予防にも効果があり発症することは無かった。

④ユニットケアの充実を図る

- ・面会制限・中止、ボランティアの方との関わりも中止等いろいろな活動制限中、新型コロナウイルス感染を考慮しながら、入園者個々の医療度に応じた支援を行った。
- ・家族の方との関わりも少ない状況だったが、5月からオンラインを導入し希望される家族には時間の制約はあるが対応した。ドライブ等の園外活動は自粛したが、個別を重視しゆっくりと寄り添える関りは増えた
- ・コロナ禍も三年目に入り、日々の支援に密を避けることが出来ない医療・介護の現場でも、新型コロナウイルス対応のために、生活様式の見直しと続けていく力を共有できた一年だった。一年遅れた成人式もユニットで協働し開催することができた。

(2) 生活支援課

①新型コロナウイルス感染症対策を講じた支援

- ・棟内 Wi-Fi 環境の整備で ZOOM などを活用することができ、活動や行事の分散化・接触を避け安全に進行できる機会が拡大した。
- ・感染状況に応じ面会を制限し、環境を随時整備した。オンラインを希望する家族が増加、日々の生活を知っていただきやすく安心に繋げることができた。

②安心安全な生活環境の整備と日中活動・行事等の満足度向上

- ・生活棟およびユニット交流禁止で入園者個々の楽しみをなくさないよう、個別での療育や日々の関わりを重要視した支援を行った。
- ・入園者の園外活動（外出など）制限が続く中、ドライブクラブを再発足。車中のみのドライブではあったが外出気分を味わい、気分転換を図ることができた。
- ・療育園祭は生活棟別で2年ぶりにプレイホールで実施。クリスマス会はユニット別で、感染リスクを最小限に抑え実施した。
- ・園内研究発表では、こどもクラブを発表した。感染対策のため児童全員の合同活動が難しく、今後実施方法を検討していく必要がある。
- ・ボランティアは、縫物・絵葉書のみ活動していただいた。全てのボランティアに対し入園者がしおりを作製、手紙を添えて郵送し関係維持を図った。
- ・身体拘束等の適正化に向け、委員会の開催、指針などを整備した。

③関係機関との連携

- ・措置児の小学部入学に伴い、特別支援学校、鳥栖市教育委員会、児童相談所と密に連携を図りスムーズに移行できた。
- ・感染状況に応じ対面やオンライン授業で随時対応、中止することなく授業を継続できた。また、職員も WEB 機器等操作に使い慣れてきており順調に経過してきた。
- ・入学式や卒業式など節目の行事については、人数制限やアクリル板の使用など感染対策を施すことで対面での式典ができた。

④人材育成と働きやすい環境づくり

- ・感染対策で生活棟交流ができない時期もあり、各生活棟の支援員の協力・連携が一層必要不可欠であった。短時間職員のフォローでスムーズに業務が進行できるよう配慮した。
- ・実習生は受け入れ中止。オンラインを活用し重症児（者）の情報を発信した。

<年間行事>

月	行 事	月	行 事
4 月	花祭り（7日） 中原特別支援学校入学式（8日）	10 月	第2生活棟療育園祭（27日） 第1生活棟療育園祭（28日）
6 月	総合防災訓練（23日）	12 月	第1生活棟クリスマス会（16日） 第2生活棟クリスマス会（17日） もちつき会（22日）
7 月	第1生活棟夏祭り（29日） 第2生活棟夏祭り（30日）	2 月	園内研究発表会（9日）
9 月	夜間防災訓練（22日）	3 月	中原特別支援学校卒業式（11日） 成人を祝う会（12日）

※季節・小行事、ユニット単位で行った。

3 地域支援部

（1）地域支援課

本年度、新型コロナウイルス感染症における感染対策を講じながら年間を通し事業継続を行うことができているが、必要に応じ個別での利用制限を設け対応を行っている。

また放課後等デイサービスの利用枠を中等部まで広げ、利用ニーズを調整し実施した。療育活動に関しても分散化した実施方法で取り組んだ。

<各事業利用者数推移>

①生活介護事業

	登録者数	実施日数	利用延人数	1日平均利用者数
令和2年度	32	267	2,217	8.3
令和3年度	31	307	2,890	9.5

- ・療育活動に関しては、園内にWi-Fiが設置された事によって動画視聴での雰囲気や気分を味わうことが出来る活動が増えている。

②多機能型（重心）児童発達支援・放課後等デイサービス

	登録者数	実施日数	利用延人数	1日平均利用児数
令和2年度	11	210	547	2.6
令和3年度	12	240	673	2.8

- ・令和4年度より中等部の受入れを開始する。
- ・年齢に応じた療育活動に力をいれ取り組んでいる。

③日中一時支援事業

	利用契約者	利用延件数	1 日平均利用件数
令和 2 年度	51	775	2.1
令和 3 年度	52	1,296	3.5

- ・ 土日祝日の利用者数が増え、レスパイトも増えている
- ・ 児者ともに増えている

④居宅介護等事業

	利用契約者	利用延件数	1 日平均利用件数
令和 2 年度	16	1,549	4.2
令和 3 年度	18	1,186	3.2

- ・ 感染対策等で自宅での支援が難しい事が増えている。

⑤福祉有償運送サービス

	利用契約者	サービス延件数
令和 2 年度	13	124
令和 3 年度	13	69

- ・ 昨年度より生活介護事業の福祉有償運送サービスを休止している。

(2) 総合相談室

新型コロナウイルス感染予防対策のため各事業において可能な限り非接触サービス（電話や ZOOM など）での対応を検討しながら進めた。また、鳥栖・三養基地区相談支援体制の充実と強化に向けた取組として令和 4 年 4 月より開始する（新規）相談支援業務の委託事業について協議をした。

①計画相談事業

	障害者	障害児	計
2 年度	986	417	1,403
3 年度	959	302	1,261

②佐賀県障害児等療育支援事業

	外来相談	訪問相談	施設職員等支援	療育機関支援
2 年度	1,261	176	125	18
3 年度	1,559	146	128	17

- ・ 2 年度県予算上限額 886 万、3 年度県予算上限額 835 万円。

③認定調査

2 年度	61
3 年度	53

④鳥栖市巡回支援専門員整備事業

2 年度	240
3 年度	250

- ・ 2 年度鳥栖市予算上限額 288 万、3 年度鳥栖市予算上限額 300 万。

4 事務部

(1) 安定した運営

毎月の各種事業の実績及び会計データの分析と職員の加算取得の配置基準等も月ごとに検証した。情報資産管理ソフトを導入し、情報セキュリティ研修を実施した。

(2) 業務の効率化

無線 LAN 環境の整備、ビジネスチャットの導入、共有フォルダの活用等により、情報共有および委員会・会議その他業務の効率化を図った。

(3) 職場環境の整備

- ①衛生委員会を中心に、メンタルヘルス室と連携しながら良好な環境づくりに努めた。
- ②計画的な年次有給休暇取得を呼び掛けた。

IV 地域社会との交流

1 実習生の受け入れ

<令和 3 年度 受入状況>

実習の種類	実 習 校
看護師	純真学園大学 看護学科（リモート） 聖マリア学院大学（リモート） 緑生館専攻看護学科（リモート）
臨床心理士	福岡女学院大学（リモート） 西九州大学（リモート） 筑紫女学園大学 1 名（10 日間）
保育士	中村学園大学短期大学部（リモート）

2 ボランティア

(1) ボランティア

<ボランティア数と状況>

ボランティア延べ総数		30名（月平均2.5名）
ボランティア内容	・裁縫 ・絵手紙 ・空調、配電の点検整備	

3 交流活動

(1) 中原特別支援学校 交流行事への参加

・入学式 ・体育祭 ・卒業式

V 総務

1 職員の状況

<職員数（年度末）>

	常勤医師	非常勤医師	常勤歯科医師	非常勤歯科医師	薬剤師	診療放射線技師	歯科衛生士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	相談支援員
2年度	4	6	1	2	5	2	6	10	8	8	3	12
3年度	4	9	1	2	3	2	5	10	8	8	4	10
増 減	0	3	0	0	-2	0	-1	0	0	0	1	-2

	看護師	准看護師	ケアワーカー	生活支援員	管理栄養士	調理師（員）	事務員	環境整備員・送迎職員	施設管理員	ホームヘルパー	子育て支援・託児所職員	合計
2年度	46	17	22	38	3	16	11	7	1	4	18	250
3年度	48	18	22	40	2	15	11	7	1	4	14	248
増 減	2	1	0	2	-1	-1	0	0	0	0	-4	-2

※短時間職員を含む。生活支援員には、介護福祉士・社会福祉士・保育士の資格保有者を含む。

2 職員研修

(1) 園内研修

テ ー マ	期 日	講 師
新採職員 OJT 研修	4/15	若楠療育園職員
救命処置について	6/30	鳥栖消防署・医療安全事故防止委員会
情報セキュリティ研修	7/13	リコージャパン株式会社様 ・医療安全事故防止委員会
社会福祉施設等における感染防止 対策について（動画視聴）	10/1 ～31	感染防止委員会
アンガーマネジメント研修	10/21	上瀧惇子・衛生委員会
入園者からのお話	1/19	入園者様・研修委員会

(2) 園内研究発表会（令和4年2月9日）

発表演題	発 表 者
コミュニケーションツールを活用した支援	第1生活棟 立石治 江崎史穂
排痰ケアの実践	第2生活棟 松下由美 眞谷里江
こどもクラブ発足から現在までのあゆみ	生活支援課 山崎恭子 寺尾真澄
施設入所の重症心身障害児の行動分析と 興味関心の明確化	リハビリテーション課 入江恵子
入所者に合った安全な食事提供について	栄養課 井上瑞紀 西実沙樹
利用者への安全な食事支援を目指した取り組み	地域支援課 米岡恵 野田智里
経管栄養者の気管切開と口腔状況との関連について	歯科 久保栞
どんぐりセンター若楠における育児支援	どんぐりセンター 大中文子 園田純

3 防犯防災管理

- (1) 毎月1回、職員の防災意識の向上、役割分担体制の把握、災害時の行動力を培うために、通報・初期消火・避難誘導の防災訓練、さらに災害時の朝食提供訓練も同時に行った。新型コロナウイルス感染防止のため集合訓練ではなく各課単位で訓練を実施した。
- (2) 例年9月に今町・弥生が丘・柚比地区の方の参加協力のもと実施している夜間防災訓練（夜間非常時の職員の行動、緊急連絡網の稼働等訓練）については、新型コロナウイルス感染防止のため職員のみで緊急連絡の訓練を行った。
- (3) 消防設備定期検査（年2回）、自主点検（随時）を実施。
- (4) 有事を想定しての様々な災害シミュレーション訓練の実施。
- (5) 継続して防犯対策を実施。

4 施設整備及び環境の整備状況

- ・パソコン10台（入替9・新規1） ・風除室設置（どんぐりセンター）
- ・カーポート設置（外来感染者出入口） ・サークルベッド
- ・モーターリフトムーバー ・AED ・分包機 ・電動ベッド ・ベッド
- ・経腸栄養用輸液ポンプ3台 ・ポータブルレントゲン装置（歯科）
- ・冷温配膳車 ・冷凍庫 ・NAS ・SKYSEA（情報資産管理ソフト）
- ・無線LAN環境構築 ・ジャンボステーション（ゴミ容器）
- ・オンライン資格確認システム一式 ・自動血球計数CRP測定装置
- ・高圧設備改修工事 ・遠赤外線暖房機

5 寄付

ご 芳 名	
田中 和代 様	嬉野 政則 様
馬場 米子 様	株式会社篠原工務店 様
九州納豆組合 様	JA 佐賀県女性組織協議会 様

6 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	カーテン越し面会の15分間のスタートのタイミングが、家族と職員で違って、家族が計った時間より短かった。	ストップウォッチを2個準備し、お互いがよく見える位置におき、同時にスタートすることにした。	済・未
2	新型コロナウイルス感染予防対策での、通所サービスの利用制限に関して、家庭の状況等も考慮した個別のルールを考えてほしい。	利用制限の基準をわかりやすく、統一することにより、迅速な対応がとれることを説明し、理解していただいた。	済・未

7 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
	な し		済・未

若楠児童発達支援センター

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

若楠児童発達支援センターは、社会福祉法人若楠の基本理念のもと、身近な地域の障がい児支援の拠点施設として、障がいのあるなしにかかわらず様々な子ども達のニーズに合わせた支援に努め、さらに、産前産後の子育て支援の定着により、幅広くより身近に子どもの健やかな育ちと安心した子育てができる地域づくりに取り組むことができた。新型コロナウイルス感染禍には施設の感染防止策を厳守し、安全で安心して利用できるセンターを目指した。

（1）地域の障がい児や家族への支援

若楠児童発達支援センター事業を通して、個別性を考慮し面談会やお迎えの際のご家族との情報交換等を密に行うことにより、利用児一人ひとりにあった支援に努めた。

（2）地域の障がい児を預かる施設への支援とネットワーク強化の推進

佐賀県障害児等療育支援事業や保育所等訪問事業等を通して、幼保育園・学校・施設等の要請に応じて、受入れ、出張対応を行った。また、県内の療育機関や自立支援協議会等のネットワーク会議にも積極的に参加し、連携の強化に努めた。

（3）障がい児・健常児の共生の場として（育児不安を含めた）の拠点施設の役割を果たす

どんぐりセンター若楠と、出張ひろばポントスの2か所の子育て支援センター開設を行い、より身近な場所での子育て支援を行うことができた。

（4）地域の発達グレーゾーン児等の支援と家族・関連機関への具体的な支援の実施

どんぐりセンター若楠、佐賀県障害児等療育支援事業、若楠児童発達支援センターの各々の事業機能を効果的に活かし、療育や家族の相談等を積極的に受け入れた。

（5）産前産後の相談支援等の実施

どんぐりこころ子育てサロンを毎月1回開催し、リピーターも増え、子育てへの安心感と孤立感の払拭に繋げることができた。産前産後子育てサロン（地域福祉振興基金助成事業）は終了するが、どんぐりセンター若楠内で「赤ちゃんひろば・プレママサロン」として事業を継続し、引き続き産前産後の子育て支援を行っていく。

II 利用者の状況（登録者）

1 年齢

＜どんぐりセンター若楠＞

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	プレママ	合計
人数	45	25	23	16	9	13	131

＜児童発達支援センター＞定員 31 名

年齢	3 歳未満	年少	年中	年長	合計
男	9	14	12	13	48
女	3	2	3	3	11
合計	12	16	15	16	59

＜放課後等デイサービス＞定員 10 名

年齢	1 年生	2 年生	3 年生	合計
男	7	8	6	21
女	0	0	2	2
合計	7	8	8	23

＜保育所等訪問支援＞

年齢	保育園	幼稚園	1 ～3 年	4 ～6 年	合計
男	0	0	2	1	3
女	0	0	1	0	1
合計	0	0	3	1	4

Ⅲ 事業の実施状況

1 子ども・子育て支援事業

(1) どんぐりセンター若楠

- ・新型コロナウイルス感染防止策を厳守し、定員を 5 組に減らし予約制で開園した。
- ・一人ひとりとゆっくり対応でき、より丁寧な子育て支援を行うことができた。
- ・家族の相談の中から、療育等支援事業などの相談や診療に繋げることができた。また家族の持つ子育てに対するエンパワメントを引き出す支援を行うことができた。

＜月別利用状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
どんぐりセンター若楠	128	99	162	134	105	104	157	158	120	98	64	100	1,429
出張ひろばポントス	12	9	10	7	12	7	4	4	2	5	8	6	86

(2) どんぐりこころ子育てサロン

- ・新型コロナウイルス感染防止策を厳守し、定員を 8 組程度とし、5 月以外はすべての月で行うことができた。
- ・和やかな雰囲気の中、従来の講義、相談、親子レクレーションに加え、身長体重測定も行い、より内容のあるサロンの開催ができた。

- ・子育てサロンを楽しみに来られるご家族や家族間の交流も増え孤立感の払拭にも繋がった。
- ・3月末にはお別れコンサートを行い、生演奏を楽しんでいただいた。

<月別利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子ども	5	0	5	6	5	5	6	7	8	6	6	6	65
母親	5	0	5	6	5	5	6	7	8	6	6	6	65
その他	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	6
合計	11	0	11	12	10	10	13	15	17	12	12	13	136

(3) わかくす託児所

- ・家庭的保育所として定員12名、2歳までの子ども預かっている。
- ・地域の子どもたちや法人内の職員の子どもを預かり、新型コロナウイルス感染対策を厳重に行う中、それぞれの子どもたちの健やかな成長を促した。
- ・法人内の職員に対して、育児休業後に安心して職場に復帰できる一助を担っている。

<月別利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	32	15	40	36	21	30	22	18	13	0	0	0	227
1歳児	96	69	103	79	108	80	116	101	102	102	106	112	1,174
2歳児	32	46	58	39	55	46	69	71	92	70	85	97	760
3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	33
	160	130	201	154	184	156	207	190	207	172	191	242	2,194

2 若楠児童発達支援センター

イ) 制度に対応した適切な配置基準等と安定的な運営

- ・基準人員を確保し療育を提供できた。感染対策による利用制限の影響により、総利用者数は減少したが、事業所内で感染者や濃厚接触者が発生しても、広げることなく運営できた。
- ・感染防止対策実施状況は速やかに情報を公開し、保護者の不安軽減に努めた。
- ・利用制限中は希望によりオンライン療育も行ったが、利用は限定的だった。

ロ) ガイドラインを根底にその成果に対する評価の公表と改善

- ・保護者等評価の意見を参考に、指導室の環境整備と保護者交流会を行った。

ハ) 療育参観や親子療育、保護者交流会等による家族支援

- ・保護者療育参観は会場をプレイホールに移し、療育活動のビデオ視聴や療育体験のほか、他家族との接触を避ける形での親子遊びを行った。
- ・保護者交流会は参加者数を限定し、意見交換を行った。

二) 関係機関や障がい児の通う保育所等との連携による地域支援

- ・オンライン支援を基本としつつ、感染流行を見極め、訪問先と感染防止対策を共有し、実施した。

ホ) 就学準備学習会やつみきセミナー等家庭療育支援学習会の開催

- ・就学準備学習会は感染対策を徹底し、予定通り実施した。
- ・つみきセミナーにおいては、感染拡大傾向が好転しなかったためオンラインにて言葉と運動機能の発達について講義を行った。ただし、ビデオ会議の操作に不慣れで、当日接続できない保護者もでた。

へ) 職員の指導力及び専門性のスキルアップ

- ・コロナ禍における研修機会の確保として、研修動画配信サービスを導入し、スタッフ全員が任意の時間に受講できるようにした。

ト) 各種研修会の実施

- ・令和3年度佐賀県ペアレント・プログラム支援者養成事業の実施（7日間）
- ・令和3年度佐賀県医療的ケア児等コーディネーター養成等研修の実施（4日間）

<利用者数推移>

①児童発達支援センター

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
2年度	69	237	4,639	19.6
3年度	56	238	4,358	18.3

②放課後等デイサービス

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
2年度	25	229	1,412	6.2
3年度	23	232	1,341	5.8

③保育所等訪問支援

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
2年度	9	42	45	1.1
3年度	4	24	24	1.0

実習生受入れ状況

実習の種類	学校
保育士	福岡県立大学、九州龍谷短期大学、福岡女子短期大学
看護師	アカデミー看護専門学校（講義）

若木園

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

法人の基本理念を踏まえ、地域に役立つ障害者支援施設を目指し、重度の知的障害や強い行動障害をもつ利用者、高齢・機能低下による医療・介護が必要な利用者に丁寧な支援を行った。感染症対策を実施しながら、地域の障害者福祉ニーズ要請に応えるため、新規利用者の受入れ、緊急短期入所、実習生の受入れ、各種の相談支援を行った。児童サービスにおいては、日常生活の支援を継続するため、放課後等デイサービスから保育所等訪問支援への移行の準備を行う。また、専門的な支援を行うため外部研修（ウェブ研修中心）の参加も行った。

管理棟及び本館の施設設備も老朽化が著しくなっており、必要に応じ営繕を行いながら、利用者の生活環境の整備と働きやすい職場環境づくりを行った。

各種委員会の内容を充実させ、より実践的な支援や危機管理、働きやすい職場環境につなげるため産業医の指導を受け実践している。また、事業を支える職員の人材確保にも力を入れた。

II 利用者の状況

1 年齢別・性別

（施設入所）

令和4年3月31日現在（名）

性別 \ 年齢	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合計	平均年齢
男	0	1	13	17	9	0	3	43	44.5
女	0	2	5	8	6	2	5	28	48.9
合計	0	3	18	25	15	2	8	71	46.0

※最少年齢 27 歳 ※最高年齢 76 歳

2 障害支援区分

（名）

性別 \ 区分	3	4	5	6	合計	平均区分
男性	0	1	9	33	43	5.74
女性	0	1	4	23	28	5.78
合計	0	2	13	56	71	5.76

III 事業の実施状況

1 入所支援・生活介護

- （1）高齢化、身体機能低下、疾病のある利用者に対して専門家会議を開催し、統一した支援体制を図り安心して生活できる環境を整えた。
- （2）障害特性理解と利用者一人一人に合った個別支援や生活支援の実現に向け、職員の園内現場実習を実施した。
- （3）11月より利用者37名を対象に、作業療法士によるリハビリマネージメントを開始

した。

2 通所生活介護

- (1) 重度化・複雑化するニーズに対し、丁寧な対応の統一を図った。
- (2) 他事業所との情報共有と将来の生活像を見据えた地域連携のため、担当者会議やケース会議を積極的に実施した。
- (3) 利用者の特性を理解し、豊かな生活を目的とした支援に取り組み、事例研究発表等で報告した。
- (4) 感染症対策のため家族面談を自粛、連絡帳を活用し写真等でより分かりやすく活動報告を行った。
- (5) 多様化する相談に対し、丁寧な対応と他機関との連携に努めた。

3 放課後等デイサービス

- (1) 年々高まるニーズに対し療育に特化した事業展開を継続した。
- (2) 障害種別ごとの研修へ参加し、専門知識・技術の向上を図った。
- (3) 他事業所、学校と連携し、会議を設けながら総合的な児童への成長発達支援に努めた。

IV 保健衛生

1 健康管理

- (1) 利用者疾病の早期発見及び健康管理のため、年2回の健康診断を実施。なお、異常のある方へは、適宜二次検査、治療を実施した。
- (2) 支援員、栄養士、作業療法士など多職種と連携し体調異常の早期発見と治療・回復に繋げることができた。
- (3) タブレット導入（写真や画像、動画の共有）により、直接受診ができない場合でも主治医への正しい情報提供を可能にした。
- (4) 地域の医療機関との連携強化を図り、緊急時や専門医療の受診対応を行った。
- (5) 専門医療については、定期的な専門医の診察を受け、治療を行った。
- (6) 感染予防委員会（定期・臨時）の延長として感染対策に必要な物品を整え、職員指導（吐物処理、ガウンテクニック）と、適宜予防対策の検討を行った。
- (7) 新たに感染症対策レベル表を作成し、職員と利用者、ご家族や外部の対応をレベルごとに指示を明確にし、感染時対応の統一を図った。
- (8) 入園者（保護者承諾のもと）と職員に対し、感染や重症化防止の為コロナワクチン・インフルエンザ予防接種を実施した。
- (9) 保健衛生日誌の記録を活用し、医務間の情報共有と連携を図った。
- (10) 保護者への健康管理情報の提供や健康相談を適宜実施することで、信頼関係を築くことに努めた。

2 健康診断等の実施状況（若楠療育園）

実施期間	内 容	実施者数
R3. 5. 11～5. 27	健康診断（血液・尿・胸写・心電図・他計測等）	71 名
R3. 10. 27～11. 16	健康診断（聴打診・血圧・体重・一部採血）	71 名

3 入園者の疾病状況（若楠療育園）（延べ人数：名）

科 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
精神科	71	71	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	842
内 科	40	36	50	23	45	30	28	33	34	45	30	48	442
歯 科	20	2	18	14	17	10	13	13	16	14	0	5	142
皮膚科	11	6	6	25	8	10	12	11	2	3	4	4	102
整形外科	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	3	9
リハビリ	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
合計	146	115	146	134	140	120	123	127	123	132	105	130	1,541

4 入園者の協力医療機関受診状況（延べ人数：名）

医療機関名	受診状況	医療機関名	受診状況
鹿毛病院	41	原三信病院	2
岩岡整形外科	7	久留米大学病院	13
おか眼科	20	聖マリア病院	2
本間病院	5	肥前医療センター	13
ごんどう皮膚科	34	今村病院	27
すぎやま内科	1	くるめ病院	4
せとじまクリニック	1		

5 入園者の入退院状況

病院名	疾患名	期間
久留米大学病院	僧帽弁閉鎖不全症	令和 3. 3/15～4/26 退院
本間病院	統合失調症	5/7～8/10
白石保療院	統合失調症	8/11～入院中
くるめ病院	直腸脱	1/31～2/17

6 保健の実施状況

実施事項	回数	対象	実施事項	回数	対象
検温	1日 2回	全員	皮膚科受診	週 1回	異常者
体重測定	月 1回	全員	歯科受診	年 3回	全員
	異常者随時		歯科受診	随時受診	異常者
血圧測定	年 2回	全員	整形外科受診	週 1回	異常者
	異常者随時		療育園以外の 医療機関受診	随時受診	異常者
身長測定	年 1回	全員			

7 感染症罹患状況報告

感染症	期間	罹患者数
なし		

V 食事班

1 実施状況

人員不足により月6食弁当対応を行っているが、食事については、利用者個々のアセスメント表に基づき、栄養バランスのとれた献立を作成。多くの食材を使用し、見た目にも鮮やかに工夫した調理を行った。また、適切な時間に提供することができた。

栄養ケアマネジメントにより、看護師・支援員との連携を密にして、一人ひとりの栄養状態の把握はもとより、病態に合わせた食事や運動の取入れを実施することができた。

2 食事利用状況

月 食	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	入園者	通所短期	入園者	通所短期	入園者	通所短期	入園者	通所短期	入園者	通所短期	入園者	通所短期	入園者	通所短期
朝食	1983	37	2117	26	2044	30	2054	48	2129	16	2095	2	2033	63
昼食	1953	375	2100	324	2027	351	2036	385	2110	348	2061	255	2010	349
夕食	1975	50	2118	41	2044	43	2046	56	2118	15	2100	3	2020	64
小計	5911	462	6335	391	6115	424	6136	489	6357	379	6256	260	6063	476
合計	6,373		6,726		6,539		6,625		6,736		6,516		6,539	

月 食	1 1 月		1 2 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期入所
朝食	1968	57	2036	34	1986	16	1943	8	2083	15	24, 471	386
昼食	1972	337	2020	309	1988	301	1935	263	2069	318	24, 281	4, 224
夕食	1971	57	2004	50	2012	17	1944	8	2078	17	24, 430	431
小計	5911	451	6060	373	5986	334	5822	279	6230	350	73, 182	5, 041
合計	6, 362		6, 433		6, 320		6, 101		6, 580		78, 223	

常食入園者 54 名
 きざみ食入園者 4 名
 粗刻み食入園者 11 名
 腎臓病食（減塩食） 1 名
 腎臓病食（減塩・低蛋白食） 1 名
 合計 71 名

VI 地域支援

1 生活介護事業利用実績（通所）

（1）年齢 (名)

性別 \ 年齢	20 歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65 歳以上	合計	平均年齢
男	1	4	7	4	0	0	0	16	34.7
女	1	4	5	0	0	0	0	10	30.9
合計	2	8	12	4	0	0	0	26	33.0

※最少年齢 19 歳 ※最高年齢 57 歳

（2）障害支援区分 (名)

性別 \ 区分	3	4	5	6	合計	平均
男	0	2	4	8	14	5.4
女	0	3	5	3	11	5.0

（3）利用者数 (延べ人数：名)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人数	340	294	315	313	297	254	303	298	281	267	255	285

合計 3, 502 名
 前年度比 +21 名

2 放課後デイサービス事業実績

(1) 年齢 (名) (歳)

性別 \ 年齢	小学生	中学生	高校生	合計	平均年齢
男	4	13	4	21	14.0
女	2	2	1	5	12.6
合計	6	15	5	26	13.3

(2) 利用者数 (延べ人数 : 名)

(前年度比 +47 名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	80	76	86	84	72	75	82	76	80	67	62	73
合計 913名												

3 短期入所事業実績

(1) 年齢 (名)

就学前	小学生	中学生	高校生	18～20 歳
男 0	2	0	1	3
女 0	0	0	0	2
21～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	合計
男 6	4	2	0	18
女 3	2	1	0	8

(2) 障害支援区分

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	1	2	2	4	7	16
女	0	0	0	1	4	3	8
男 (児)	0	1	2	0	0	0	3
女 (児)	0	0	0	0	0	0	0

(3) 利用者数 (延べ人数 : 名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用	61	40	48	68	19	4	89	80	59	30	13	27	402

前年度比 +136 名

4 日中一時支援事業実績

(1) 年齢 (名)

就学前	小学生	中学生	高校生	18～20 歳
男 0	2	0	1	1
女 0	0	0	0	0
21～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	合計
男 7	2	0	0	13
女 4	1	1	0	6

(2) 利用者数

(延べ人数：名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用	26	27	18	21	7	5	7	8	7	18	8	10	162

前年度比－122名

※重度障害児・者の利用受け入れに伴い、職員支援体制を調整しながら実施した。

VII 地域社会との交流

1 実習生

(名)

実習の種類	実習校	期間	人数
高等部現場実習	中原特別支援学校	令和3年11月1日～11月2日 令和3年11月17日～11月18日	2
保育実習	佐賀女子短期大学	令和3年9月6日～9月16日	4
介護体験実習	西九州大学 同志社大学	令和3年10月4日～10月8日 令和3年10月11日～10月16日 令和3年11月1日～11月5日 令和4年2月17日～2月21日	5

2 ボランティア

※感染症防止対策を行っているため受入を制限した。

3 交流活動

※感染症防止対策を行っているため参加を自粛した。

地域貢献活動として、若木祭に代わる「山浦町スポーツゴミ拾い」を実施した。

麓地区文化祭の中止を受け、若木園文化祭を開催した。

VIII 総務

1 職員状況

(名)

	施設長	児童発達支援 サービス管理責任者	生活支援員	保育士	児童指導員	看護師	管理栄養士	調理師(員)	事務員	環境整備員	運転手	合計
2年度	1	3	47	1	1	3	1	6	3	2	1	69
3年度	1	3	49	1	1	2	1	7	3	2	2	72

※臨時・短時間職員を含む。※生活支援員には、介護福祉士・社会福祉士等資格保有者を含む。

退職者 5名(生活支援員2名 看護師2名 環境整備員1名)

入職者 8名(生活支援員3名 看護師1名 環境整備員1名 調理師・員2名 作業療法士1名)

(入職経緯：新卒1件 ハローワーク2件 民間紹介会社3件 知人友人紹介2件)

2 職員研修

(1) 内部研修

月	研修等名	内容	開催地	参加者
4	法人職員研修	新採研修	若楠療育園	森け・久家・中島・辻本・酒井・井上 伊藤・岡村
	法人職員研修	一年経過者研修	若楠療育園	佐保・井浦
5	園内研修	新採研修	若木園	森け・久家・中島・辻本・酒井・井上 伊藤・岡村
7	法人職員研修	主任研修	若楠療育園	内田・奥村・田中み 百田・島崎・三島
	法人職員研修	課長研修	若楠療育園	村山・中村り 串尾・百田
10	法人職員研修	働き方研修	若楠療育園 (ウェブ研修)	伊藤・岡村・森け 久家・中島・辻本 井上
	法人職員研修	中間業績報告会	若楠療育園	村山・中村り
2	園内研修	事例研究発表会	若木園	(参加者職員)
3	法人職員研修	事業計画説明会	若楠療育園	村山・串尾

(2) 外部研修

月	研 修 名	会 場	参加者
5	絵カードコミュニケーションの基礎と実践	(ウェブ研修)	矢野
	障害児保育基礎研修	(ウェブ研修)	岡村
6	自閉症児者支援者養成オンラインクラスルーム	(ウェブ研修)	矢野
7	九州地区職員研修大会	(ウェブ研修)	串尾・中山・田中み
	佐賀県発達障害支援サポーター養成等研修	(ウェブ研修)	平石
8	強度行動障害支援者養成研修	佐賀市	久家
	佐賀県発達障害支援サポーター養成等研修	(ウェブ研修)	中村ま・矢野・井浦
9	「介護予防」推進リーダー人材育成研修会	(ウェブ研修)	岡村
10	全国知的障害関係施設長等会議	(ウェブ研修)	平石・矢野
	高齢者の転倒について	オンデマンド	奥村
	意思決定支援と虐待防止に関する研修会	(ウェブ研修)	山鹿
	発達障害者支援サポーター講座	(ウェブ研修)	矢野
	第60回九州地区知的障害関係施設長等研究大会	(ウェブ研修)	村山
11	強度行動障害支援者養成研修	佐賀市	中島

2	高齢期の支援が変わるとき～気づきと活かし方～	(ウェブ研修)	奥村・中山
	令和3年度現職者選択研修(発達障害領域)	(ウェブ研修)	岡村

(3) 園内研修

障害者虐待防止に向け、セルフチェックと第三者によるチェックを実施し、面談により個人自身が行動を振り返る研修をおこなった。

人材育成の観点から、チームワーク研修(屋外型チームビルディング研修)を2回実施した。

3 視察・見学等の受入れ

＊新型コロナウイルス感染防止対策のため受入を制限した。

4 防災管理

毎月1回防災訓練(火災・自然災害)を実施した。

訓練内容実施報告及び改善書を各部署へ配布し、情報共有と改善を図った。

東館2階車椅子利用者避難(階段)の安全な移動研修と応援体制強化を行った。

5 施設整備及び環境の整備状況

(1) 施設整備

- ・非常用発電設備修繕工事
- ・本館男子棟トイレ修繕工事
- ・本館女子棟換気扇修繕工事
- ・静養室ドア修繕工事
- ・架線鳥害対策工事
- ・本館男子棟玄関修繕工事
- ・本館女子棟内装改修工事
- ・本館女子棟トイレ改修工事
- ・本館男子棟エアコン修理工事
- ・東館非常口外灯修理工事
- ・本館キュービクル・高圧ケーブル修繕工事
- ・本館女子棟エアコン修理工事

(2) 備品等整備

- ・ノートパソコン更新 5台
- ・本館男子棟居室エアコン更新 24台
- ・栄養士室エアコン更新 1台

(3) 資産移管

- ・分包機(若楠療育園)

6 寄付

ご芳名
若木園保護者会 様
篠原工務店 様
小林 幸子 様
佐賀県共同募金会 様

7 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	感染対策に配慮され玄関で報告のみをおこなっている保護者に対しても検温が必要なのかと疑問に思う。	入室されない方への検温は必須とせず、感染状況に合わせた対策内容の変更を全保護者へお便りでお知らせした。	済・未
2	送迎中、利用者が水分補給用飲料水を持参され他利用者が無断で飲まれた。保護者から持参の賛否を問われる。	利用者の障害特性や拘りへのご理解を伝え、気になるものが目に入りにくい席順を見直し変更した。	済・未

8 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

青葉園

I 運営概要

若楠の理念のもと、青葉園、青葉ホームともに利用者、家族、地域から信頼される事業所を目指し取り組んだ。

利用者は、加齢に伴う機能低下等での疾病や怪我で受診や入院が増え、日頃の体調把握や退院後の生活を職員間で共有し、若楠療育園をはじめ地域の機関と相談をして、利用者の生活支援・介護に努めた。また、新たに作業場を作り、日中活動の充実を行った。

新型コロナウイルス感染症へは対策を講じた上で、日常生活、園内でできる行事等を計画、実行しコロナ禍での心身のケアに努めた。また、利用者と家族、家族と職員の繋がりを維持するために、面会等制限の細目な見直し、定期的な連絡を行った。

青葉ホームは、ホーム毎での特化した支援の充実を図るため、青葉ホーム山浦をグリーンファーム山浦への移管準備を行った。

II 利用者の状況（入所）

1 年齢

（入所）

令和4年3月31日現在（名）

年齢	20未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	合計	平均年齢
男	0	1	7	25	14	28	10	85	55.6 歳
女	0	2	1	8	7	22	6	46	58.7 歳

（通所）

令和4年3月31日現在（名）

年齢	20未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65以上	合計	平均年齢
男	2	6	1	2	2	0	0	13	32 歳
女	0	2	1	1	1	0	0	5	37 歳

2 障害支援区分

（入所）

（名）

区分	1	2	3	4	5	6	計
人数	0	0	1	26	50	54	131

（通所）

（名）

区分	1	2	3	4	5	6	計
人数	0	0	3	5	8	2	18

3 短期入所利用実績（空床型）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	4 名
延べ利用日数	0	0	0	0	2	0	0	0	7	6	0	0	15 日

※新型コロナウイルス対策にて緊急性の高い利用者のみを受け入れた。

4 日中一時支援 本年度実績無し（新型コロナウイルス対策のため）

Ⅲ 事業の実施状況

1 活動型

- (1) ユニット活動（散歩、体操、ドライブ、誕生会、調理実習、季節行事、目的別外出等）
- (2) 陶芸クラブ（年10回）
- (3) 利用者の希望に応じた個別活動（買い物、外食等）
- (4) 作業（陶芸教室、内職、清掃、洗濯等）

2 生産型

- (1) 生産活動の提供
業務受託（清掃、洗濯）、くすの樹等の活動を提供し、働くことの喜びややり甲斐の提供に努めた。

3 全体行事

- (1) スポーツ大会（5月）、青葉祭（10月）、若楠感謝 DAY（11月）、クリスマス会（12月）、餅つき（12月）

4 地域交流

- (1) 若楠感謝祭の代替で「若楠感謝 DAY」をくすの樹で開催
- (2) 地域の歩道にプランター設置
- (3) くすの樹にて地域に向けたワークショップ開催
- (4) 弥生が丘まちづくり推進協議会への協力

Ⅳ 生産型活動における生産品等、販売実績

1 収益実績

（円）／年間

	業務受託	軽作業（陶芸）	くすの樹	共通	合計
売上	8,710,814	388,398	4,657,903	174	13,757,289

2 工賃支給額

（円）／年間

生産型	活動型	合計額
1,652,145	698,933	2,351,078

Ⅴ 医務

1 健康管理

- (1) 緊急時対応マニュアル・個別医療情報シートの更新。救急時や受診時に、医療・生活面での利用者の詳しい情報を病院、他機関へ提供した。
- (2) 年2回の健康診断を実施。結果は家族に報告するとともに、必要な検査については家族と相談し対応した。
- (3) 慢性疾患、痙攣のある利用者に対し嘱託医へ相談し、受診、状態観察等適切な対応、処置を行った。
- (4) 医療機関への通院者、入院者に対し担当医師と情報交換を行い、必要な看護に努めた。
- (5) 新型コロナウイルス感染症予防接種は家族・利用者・職員へ説明と承諾を得て実施した。
- (6) インフルエンザ予防接種は家族・利用者・職員へ説明と承諾を得て実施した。

- (7) 感染予防対策として健康状態の把握と共に、清潔、換気に留意し、外出時のマスク着用、手洗い・アルコール消毒の励行を行った。新型コロナウイルス・ノロウイルス・インフルエンザ等感染対策マニュアルの作成を行い、職員への情報提供に努めた。感染時には隔離を行う等、初期の対応を迅速に行った。
- (8) 高齢者、虚弱者の疾病の予防に努めた。また、成人病、肥満の予防及び対策として栄養課との協力体制をとった。

2 健康診断、予防接種の実施

実施月	内容
4、5、6	利用者健康診断（春）
10、11	利用者健康診断（秋）
10、11	インフルエンザ予防接種
5、6、7、8、3	新型コロナウイルス感染症予防接種

＊風疹予防接種～1名（1月）

3 利用者の入院状況

医療機関名	件数	疾患名
やよいがおか鹿毛病院	15件	小腸イレウス、骨折6件、誤嚥性肺炎、肺炎、膝脱臼、大腸ポリープ2件、てんかん、リハビリ加療2件
聖マリア病院	6件	腹部大動脈瘤、急性膵炎、尿管結石2件、腎盂腎炎、尿路感染
肥前精神医療センター	3件	統合失調症2件、新型コロナウイルス感染症
福岡筑紫病院	1件	小腸イレウス

4 利用者の受診状況 (件)

医療機関	受診数	医療機関	受診数
若楠療育園	1,980	肥前精神医療センター	50
若楠療育園歯科	1,212	いぬお病院	6
やよいがおか鹿毛院	181	大島病院	46
聖マリア病院	15	ごんどう皮膚科	6
岡眼科	141	前山内科	4
まえはら耳鼻科	1	佐賀大学医学部附属病院	1
久留米大学病院	26	梅野耳鼻科	5
光風会病院	16	今村病院	2
白水レディースクリニック	1		
		合 計	3,693

Ⅵ リハビリテーション

1 実施状況

- (1) 個別リハビリテーションを対象者40名で定期的の実施し、利用者の能力維持に努めた。
- (2) ユニット単位で集団療法の実施を月2回行い、体操・スポーツ・陶芸・レクリエーション制作活動を行った。
- (3) リハビリテーション診察後の身体障害者手帳の申請、補助制度を使用した車いすや装具等の購入の対応し、利用者にあったものを提供を行った。
- (4) 利用者の状況に応じて、住環境の見直しや福祉器具についての助言を行った。

Ⅶ 栄養課

1 給食状況

- (1) グリーンファーム山浦やどんぐり村の食材を使用し、安心・安全な食事提供に努めた。
- (2) 温かい物は温かく、冷たい物は冷たくを心がけ、直前配膳に努めた。
- (3) 手作り弁当を開始し、利用者の方々に喜んでいただいた。
- (4) 体調不良や身体状況に応じて個別対応を行った。
- (5) 生活支援員・看護師と連携し、利用者に適した食事の提供に努めた。
- (6) 非常時・災害時（厨房停止時）の食事提供ができる体制を整えた。

2 食事利用状況

(食)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所
朝食	3682	30	3841	31	3702	29	3833	31	3918	29	3783	47	3797	31
昼食	3527	345	3544	331	3485	378	3561	365	3662	298	3659	290	3597	330
夕食	3643	30	3807	31	3657	30	3829	30	3891	31	3785	49	3764	31
小計	10852	405	11192	393	10844	437	11223	426	11358	358	11227	386	11158	392
合計	11,257		11,585		11,281		11,649		11,829		11,613		11,550	
	11月		12月		1月		2月		3月		合計			
	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所		通所	
朝食	3660	30	3783	34	3728	35	3493	21	3949	0	45,169		348	
昼食	3406	345	3473	337	3609	362	3413	221	3776	313	42,712		3,815	
夕食	3649	30	3748	35	3758	35	3498	20	3941	0	44,970		352	
小計	10715	405	11004	406	11095	432	10404	262	11666	313	132,851		4,515	
合計	11,120		11,410		11,427		10,666		11,979		137,366			

Ⅷ 青葉ホーム

1 実施状況（山浦・弥生が丘Ⅰ・弥生が丘Ⅱ・弥生が丘Ⅲ）

- (1) 利用者個々に応じた生活支援、希望に応じた個別活動（外出・買物等）の実施。
- (2) 利用者の日中利用事業所との情報共有を図り連携に努めた。
- (3) 各ホームでの余暇活動（季節行事等）を行い交流に努めた。

(4) 環境整備として年2回、各ホームの除草作業等を実施した。

2 年齢

(令和4年3月31日現在) (名)

年齢	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65以上	合計	平均年齢
男	1	2	3	9	7	2	0	24	43
女	0	4	4	6	3	0	0	17	32

3 障害支援区分

(令和4年3月31日現在) (名)

区分 場所	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
山浦	3	1	1	0	3	0	0	8
弥生が丘Ⅰ	0	0	2	2	6	0	0	10
弥生が丘Ⅱ	1	0	3	6	1	0	0	11
弥生が丘Ⅲ	2	0	0	2	7	1	0	12
合計	6	1	6	10	17	1	0	41

4 日中活動状況

(令和4年3月31日現在) (名)

種別 場所	生活介護	就労継続B型 就労移行支援	就労継続A型	一般就労	その他	合計
山浦	0	4	1	3	0	8
弥生が丘Ⅰ	0	7	2	1	0	10
弥生が丘Ⅱ	2	6	1	2	0	11
弥生が丘Ⅲ	3	6	1	2	0	12
合計	5	23	5	8	0	41

5 短期入所 (空床)

(令和4年3月31日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4名
延べ利用日数	3	3	0	0	0	3	12	0	0	0	0	0	21日

IX 地域社会との交流

1 特別支援学校等実習受入状況

(1) 小郡特別支援学校 (高等部)

(名)

期 間	人 数
令和3年 7月5日～ 7月 9日 (5日間)	1
令和3年11月8日～11月12日 (5日間)	1

2 介護等実習の受入状況

(1) 麻生医療福祉専門学校

(名)

期 間	人 数
令和4年 3月28日 ～ 令和4年 3月30日	1

(2) 西九州大学

(名)

期 間	人 数
令和4年 3月14日 ～ 令和4年 3月26日	1
令和4年 3月21日 ～ 令和4年 4月 1日	1
令和4年 3月28日 ～ 令和4年 3月30日	2

3 ボランティア活動状況

本年度実績無し（新型コロナウイルス対策のため）

X 総務課

1 職員状況

令和4年3月31日現在（名）

	園長	サービス管理責任者	事務員	生活支援員	看護師	作業療法士	管理栄養士	調理師等	環境整備員	世話人	世話人（夜勤専従）	医師（嘱託）	合 計
2年度	1	6 ※GH2	8	85	4	1	2 ※兼務1	13	0	10	17	1	148
3年度	1	6 ※GH2	8	89	3	1	2 ※兼務1	13	1	11	17	1	153
増 減	0	0	0	+4	-1	0	0	0	+1	+1	0	0	+5

※契約職員・短時間勤務職員含む

2 職員研修

月	研 修 会 等 名 称	開催地	参 加 者
4	新採研修	園 内	中村・白石・中山・立石・山下
5	さが「福祉施設の命を守る」セミナー	オンライン	田熊・古賀
7	九州地区知的障害者関係職員研究大会	オンライン	長尾・川上・深町・米田・松延・村上
8	強度行動障害支援者養成研修	佐 賀 市	野方・山崎・後藤・立石
	臨床実習指導者講習会	オンライン	常井
	介護用品取扱研修（外部講習）	園 内	15名
	佐賀県感染防止対策地域連携協議会集合研修	鳥 栖 市	長尾
9	佐賀県発達障害サポーター研修	オンライン	執行・長瀬・永尾
10	障害者差別解消支援地域協議会研修会	鳥 栖 市	別府・川上

	園内事例研究発表会	園 内	40 名
11	令和 3 年度指導部会研修	オンライン	田熊
12	サービス管理責任者更新研修	オンライン	水谷、本村、川上
1	権利擁護・虐待防止研修（外部講師）	園 内	40 名
	全国知的障害者関係職員研究大会	オンライン	永尾・松延
2	強度行動障害支援者養成研修	佐 賀 市	小野・小島
3	発達障がい研修（外部講師）	園 内	15 名

3 視察等の受入

本年度実績無し（新型コロナウイルス対策のため）

4 防災・防犯管理

青葉園

- （１）定期的な防火避難訓練を実施（総合年 2 回、各エリア年 1 4 回）
- （２）受付にて記名、名札を来園者につけていただく

青葉ホーム

- （１）防火避難訓練を実施（各ホーム 年 4 回）

5 施設整備および環境の整備状況

（１）施設整備

（青 葉 園）・北側駐車増設 ・ユニット内手摺（楠 2 丁目） ・ 3 階職員入口底
（青葉ホーム）・フェンス設置（山浦）

（２）備品等の整備

（青 葉 園）・パソコン（6 台） ・エアコン ・ガス給湯器（2 台）・シャワーキャリー
（青葉ホーム）・エアコン（山浦）

6 寄付・寄贈

ご 芳 名
青葉園・グリーンファーム山浦・青葉ホームの利用者を支える会「みつば」様
佐賀県共同募金会 様
上野 祐子様
井上 美津子 様
篠原工務店 様

7 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	ご家族より電話連絡があり、市販の薬を自由に飲ませてほしい。	ご家族へ連絡をし、対応が不十分だったことを謝罪し、苦情内容の確認と対応を伝え納得して頂く。	済・未

2	グループホーム利用者のご家族が雨の日に来ホームされた際、洗濯物が干してあった。本人への声掛けや支援をしてほしかった。同内容3件	本人、ご家族へ謝罪を行い、対応を職員一同に周知徹底する。	済・未
3	工賃振込用通帳の作成を依頼受け作成したが、説明が違い再度作成を言われた。作成したが多くの時間と労力を使った。	ご家族に謝罪を行い、事務所内で情報共有を周知徹底する。 新しく契約する際に、生産活動に携わる利用者のご家族には、文面で分かるように準備を行う。	済・未
4	外出前に父親に急な外出、外泊時の食事キャンセル代について説明を行い承諾いただくが、翌日母親より「今までは払っていなかった」件について問い合わせがあった。	母親に、再度説明と現状を伝えご納得していただき、承諾してもらう。	済・未
5	母親より本人からの電話が最近かかって来ない事で確認され、公衆電話の故障であるならもう少し早く対応してもらいたかった。	ご家族へ連絡をし、対応が不十分だったことを謝罪し、苦情内容の確認と対応を伝え納得して頂く。	済・未
6	職員の電話対応に関して、高圧的に感じられたとの報告があった。	ご家族に謝罪を行い、再発防止と職員への指導を行う。	済・未
7	ご家族より、高額の出払を依頼されるも、対応が遅いと連絡がある。	ご家族には謝罪し、詳細に説明を行い納得して頂き、承諾してもらう。	済・未
8	通所利用ご家族より、コロナ対応のことをもっと細かく伝えてもらいたい。	ご家族へ謝罪を行い、再度詳細に説明を行い、内容を文面でお渡しした。	済・未
9	ご家族より、歯磨き粉容器を使用後は返却するようになっていたが、容器を捨ててしまっていた為、対応に最低だと言われる。	ご家族へ謝罪を行い、再発防止に努め、職員へは申し送りの徹底を周知する。	済・未
10	通所利用者のご家族より、コロナワクチン接種3回目の事前連絡を入れ忘れたため、急な迎えになり、予定が狂ってしまった。	ご家族へは謝罪を行い、再発防止に努める。	済・未

8 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
	な し		済・未

どんぐり村

I 運営概要

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者の自粛や濃厚接触による休み、観光事業についても営業内容を縮小するなど影響が大きい1年となった。

そのなかで、利用者の可能性を伸ばしていけるようなアート活動や地域とのつながりを作った花苗事業の実施について、計画的に行うことができた。また、観光事業についても、園内トイレの整備や屋外店舗の改装などを行い、「地域の中で親しまれるどんぐり村」を目指して、事業運営を行った。

II 利用者の状況

1 年齢分布図

(名)

	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~以上	合計
男	0	4	7	7	4	3	6	1	5	37
女	0	1	6	4	1	0	1	1	4	18
計	0	5	13	11	5	3	7	2	9	55

※最年少者 20歳 最年長者 70歳 男性平均 38歳 女性平均 39歳 平均 38.5歳

2 事業別利用契約者数

就労継続支援事業B型 55名（男性37名、女性18名）

3 市町村別利用者数（受給者証発行市町村）

(名)

	佐賀市	鳥栖市	神埼市	みやき町	小城市	多久市	白石町	吉野ヶ里町	合計
男	21	2	7	2	1	2	1	0	36
女	8	0	3	1	2	5	0	0	19
計	29	2	10	3	3	7	1	0	55

4 手帳の所有状況（療育・身体障害者・精神保健福祉手帳）

(名)

	男	女	合計
療育手帳	34	19	53
身体障害者手帳	1	1	2
精神保健福祉手帳	2	0	2
合 計	37	20	57

III 事業の実施状況

1 就労継続支援事業B型（定員40名）

(1) サービス部門（物販、パン工房、体験工房、飲食サービス）

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底しながら来場者に喜んでいただける食事や商品の提供を行った。令和2年度は、ゴールデンウィークに開園できなかったが、令和3年度はたくさんの来場者に足を運んでいただき、利用者、職員とともに充実した接客や商品提供の対応が行うことができた。

(2) 牧場部門（農園芸、環境整備、動物飼育）

農園芸班については、佐賀市の緑化推進事業（花苗育成事業）を実施し、予定の9万本を納めることができた。さつまいも栽培については、収穫体験を行い、予想以上の方に収穫をしていただき、9月いっぱい終了するほどであった。動物飼育でも乗馬体験や小動物館が人気で、土日のたびに、賑わった。利用者も自分たちの育成した野菜や花苗、飼育した動物が、たくさんの方に喜ばれるのを見て、とても励みになり、自信につながった。

(3) 福祉部門（企画作業・アート活動班）

高齢や精神的な症状がある利用者が多いために、緩やかなペースで作業を行う企画作業班ではどんぐり村内の装飾品、イベント準備、チラシ作りなど中心的な役割を担い、園内の雰囲気づくりに貢献することができた。絵画などのアート活動班も少しずつ活動が根付き、「がばいアーティスト・Tシャツ展どんぐり村」を開催することができた。

(4) 行事の開催

新型コロナウイルス感染防止対策のため利用者旅行や保護者との懇親会については中止し、利用者・職員の園内レクリエーションや食事会を実施し、利用者の働く意欲向上、余暇活動の充実に努めた。

2 就労支援部門実績

(1) 入場者数実績

(名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
6,997	11,430	5,073	4,366	3,093	15,287	12,354
11月	12月	1月	2月	3月	合計	
11,335	2,735	3,620	3,487	6,290	86,067	

(2) 売上実績

(千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
8,291	13,827	6,281	6,524	3,487	17,139	16,818
11月	12月	1月	2月	3月	合計	
11,466	4,069	4,410	3,976	9,169	105,457	

3 工賃支給実績

就労継続支援B型					
月	支給人数（人）	支給額（円）	月	支給人数（人）	支給額（円）
4	55	1,428,050	10	54	1,460,350
5	55	1,519,800	11	54	1,390,050
6	55	1,493,400	12	54	1,422,400
7	55	1,493,400	1	54	1,253,150
8	54	1,313,850	2	54	1,281,200
9	54	1,365,550	3	54	1,473,050
合計支給人数（人）		652	合計支給額（円）		16,946,250

※就労継続B型支援事業 平均工賃 25,793 円

VI 地域社会との交流

1 実習

特別支援学校、地元中学校の就業体験、施設見学など新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら受け入れを行ない、人間形成の一翼を担う社会資源としての役割を果たした。

（1）特別支援学校職場体験実習

期	間	作業部門	人 数
大和特別支援学校（高等部）	5月14日	施設見学	40名
大和特別支援学校（高等部）	5月31日～ 6月11日	動物・農園	3名
大和特別支援学校（高等部）	10月25日～11月12日	農園・パン	1名
大和特別支援学校（高等部）	11月 1日～11月12日	農園・パン	3名
大和特別支援学校（中学部）	11月17日	施設見学	46名

（2）その他

期	間	作業部門	人 数
佐賀市立松梅中学校	8月 3日～ 8月 5日	動物・パン	2名
基山町民正委員1班	9月16日	施設見学	20名
基山町民生委員2班	9月24日	施設見学	20名
佐賀市立城南中学校	10月 6日	施設見学	170名
有田町立有田中学校	11月 5日	施設見学	91名
有田町西有田中学校	11月 8日	施設見学	78名
中村学園短期大学	11月 8日	施設見学	30名
佐賀県適応指導教室 しいの木	11月19日	動物	2名
佐賀県立高志館高校	12月14日～12月16日	動物	4名

2 地域交流

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、地域交流のイベント等は、ほとんど中止となったが、花苗事業を通して、佐賀市や三瀬村との地域交流は継続して行った。

期 間	場 所
三瀬公民館花壇花植え作業 7月27日～ 7月29日	三瀬公民館
佐賀市公共施設花苗事業（前期） 5月15日～ 6月30日	佐賀市内公共施設等
佐賀市公共施設花苗事業（後期） 10月19日～11月30日	佐賀市内公共施設等
三瀬田舎と都市のふれあい祭り 10月30日～10月31日	中 止
第4回三瀬高原音楽祭 10月31日～11月 3日	中 止
三瀬公民館花壇花植え作業 11月11日～11月15日	三瀬公民館
第3回ふれあいがんばろう祭 11月14日～11月28日	どんぐり村光の広場
きらめきフェスタ 11月23日	中 止

V 総務

1 職員状況 (名)

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	目標工賃達成指導員	職業指導員	事務員	販売員・環境整備員	合計
2年度	1	1	1	1	21	1	6	32
3年度	1	1	1	1	20	1	6	31

2 職員研修

研修名	場所	期日	参加者
職員研修会（新採職員）	若楠療育園	4月1日・2日	西久保 竹原
職員研修会（一年経過者研修）	若楠療育園	4月23日	山口 古川
園内研修会（精神疾患について）	どんぐり村	6月21日	全員
職員研修会（主任研修）	若楠療育園	7月 2日	小笹 園田
職員研修会（課長研修）	どんぐり村	7月27日	貞包
社会福祉法人実務会計講座	WEB研修	8月～1月	森本
全国セルプ協議会研修（商品販売）	WEB研修	9月22日	高柳 中村
職員研修会（働き方研修会）	若楠療育園	10月 7日	西久保 竹原
馬飼養衛生事業検討会	佐賀JA	11月 8日	淋
園内研修会（虐待について）	どんぐり村	12月20日	全員

3 防災・安全管理

食品や動物に関わる作業、山間地での作業など衛生管理、安全管理を徹底して行う必要がある部門が多いため、法令に従いながら確実な管理に努めた。特に、利用者の怪我、車両の事故については、職員の意識向上を図りながら、大きな事故につながらないように努めた。

4 施設整備及び環境の整備状況

- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 事務所空調改修工事 | ② レストランプレハブ冷蔵庫設置工事 |
| ③ 中央トイレ改修工事 | ④ 屋外飲食店舗改修工事 |
| ⑤ 屋外飲食店舗電気工事 | ⑥ 運動広場・乗馬場トイレ改修工事 |
| ⑦ 木製遊具設置工事 | |

5 寄付・寄贈

ご 芳 名
・ 古庄商会 様
・ 林保冷工業株式会社 様

6 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

7 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

グリーンファーム山浦

I 運営の概要

若楠の基本理念「入園者中心主義」「開かれた施設」「若楠ファミリー」を念頭に、利用者一人ひとりの意向に基づいた、楽しく安心して活動できる場所、一般就労に向けた社会性の習得や作業訓練を行う場所を提供することができた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域交流や園内行事も制限されたが、感染予防対策を慎重に見極め、規模や内容など柔軟に対応しながら開催できた。恒例の「梅まつり」は中止した。

また、関係機関との連絡調整を密に行いながら、利用者の苦情解決及びサービスの質の向上に努めた。

1 活動の状況

明るく楽しい職場づくりを念頭に、個々の能力を発揮し意欲的に取り組めるよう支援を行いながら、事業本来の目的である就労支援の充実及び工賃向上を目指した。

- (1) 部署間で協力体制を整え調整を図りながら、法人内や外部受託作業を積極的に取り組み就労支援事業収入の安定に努めた。
- (2) 各関係機関との情報共有や連携を主導して行い、生活面を含めて個々の利用者が安心して取り組めるよう手厚い就労支援を行った。
- (3) もしもしネットと定期的に連絡会議を行い、就労移行から定着まで特色ある支援体制を整備することができ、地域からの問合せも増え新規利用にも繋がった。
- (4) 保護者への連絡を丁寧に行い、要望や課題解決に向けて迅速な対応を行うことで信頼関係を深めることができた。
- (5) 定期的にお楽しみ給食や行事食を企画し、自家製の食材や地域で収穫した野菜などを積極的に取り入れることで、利用者満足度の向上や食育にも繋げることができた。
- (6) 園内研修では、他施設の取り組みを紹介し、意見交換を行い職員の意識向上を図った。
また利用者情報を一覧で明確化し、全体で共有できた。
- (7) 新型コロナウイルス感染状況で臨時作業班体制との切り替えを行ったり、利用者及び職員の健康状態や行動内容を慎重に見極め、感染予防対策の強化及び全体意識の向上を図った。

2 就労継続支援B型事業

各部署間での調整と連携を一層強化し、新規の外部受託業務にも柔軟に対応でき、更に利用者の作業の幅が広がった。

一昨年から新型コロナウイルス感染拡大の影響で原材料費が高騰し、商品の価格改正を余儀なくされた。その分、安心・安全を念頭に品質の更なる向上と地域ニーズに即した新サービスの展開を図り、売上増及び工賃向上に繋げることができた。

3 就労移行支援事業

外部清掃作業を中心に、一般就労に必要な基礎訓練（報連相・ピッキング・社会マナー等）を行い、利用者の作業能技能及び社会性の向上を図った。また地域企業との連携を深めながら、利用者の実習や見学、求職活動に繋げ一般就労への意識向上を図った。もしもネットと連絡会議を定期的で開催し、研修や意見交換を行い支援内容の充実に努めた。

就労移行アセスメントは年々利用希望が増加しており、圏域唯一の就労移行支援事業所として役割を意識し、特別支援学校や関係機関と連携して計画的に実施できた。

4 就労定着支援事業

事業開始から3年経過し、各企業との連携及び関係性も一層強化した。もしもネットとも情報共有しながら、利用者の意向や課題解決に向けて迅速に対応し、本人及び家族との信頼関係を深めることができた。

II 利用者の状況

1 年齢別性別の状況

(1) 就労継続支援B型

(人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性	0	6	8	12	6	3	2	37	44歳02ヶ月
女 性	0	1	5	6	5	0	0	17	43歳03ヶ月
合 計	0	7	13	18	11	3	2	54	43歳10ヶ月

(2) 就労移行支援

(人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性	0	3	3	1	0	0	0	7	31歳05ヶ月
女 性	0	0	0	1	0	0	0	1	43歳10ヶ月
合 計	0	3	3	2	0	0	0	8	33歳00ヶ月

(3) 就労定着支援

(人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性	0	0	1	2	0	0	0	3	42歳07ヶ月
女 性	0	0	1	0	0	0	0	1	39歳01ヶ月
合 計	0	0	2	2	0	0	0	4	41歳09ヶ月

2 障害別性別の状況

(1) 就労継続支援B型

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神障害者 保健福祉 手帳 2 級	精神障害者 保健福祉 手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	14	24	0	0	0	38
女 性	1	13	2	0	0	16
合 計	15	37	2	0	0	54

(2) 就労移行支援

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神障害者 保健福祉 手帳 2 級	精神障害者 保健福祉 手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	0	5	0	2	0	7
女 性	0	1	0	0	0	1
合 計	0	6	0	2	0	8

(3) 就労定着支援

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神保健福 祉手帳 2 級	精神保健福 祉手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	0	2	0	0	0	2
女 性	0	1	0	0	0	1
合 計	0	3	0	0	0	3

Ⅲ 事業の実施状況

1 農園芸班 (作業科目) 花苗栽培・花壇管理・鶏卵・野菜栽培・果樹栽培

行政やどんぐり村等外部受託契約を中心に幅広く事業を行った。地域の要望に応えながら空家・空地や田畑の管理にも取り組み、新規受託業務も増加し、収入の安定に繋がった。また、コロナ禍で活動が制限される中、街づくり推進センターや市民活動ネットワーク等とも調整しながら、ガーデニング教室や花壇植栽を行い、地域交流を積極的に取り組んだ。

鶏卵事業では飼育環境を整備し、業務の効率化と産卵率の向上を目指した。また、鮮度管理を徹底し、各方面の顧客に対して安定した供給を行い満足度の向上にも努めた。

2 菌床椎茸・業務受託班 (作業科目) 菌床椎茸栽培・児童発達センター清掃他

菌床椎茸部門では、管理業務の整備と効率化を図り、繁忙期は各作業班との協力体制で柔軟に対応し、収益の安定に努めた。

業務受託部門では、児童発達センターや外部での清掃作業を通して、挨拶やマナー等の

社会性及び就労に対する意識の向上を図った。新規受託業務として、もしもしネット公用車の洗車や、期間限定でトライアル鳥栖チルドセンターの商品出荷業務にも取り組んだ。

3 食品加工班 （作業科目） 味噌・菓子製造販売

味噌部門では、新型コロナウイルス感染拡大の影響があった一昨年に比べて、各方面の受注量が回復してきた。直売店や小売りも順調で、後半期は増産体制で安定供給に努めた。菓子部門も、地域企業を中心に受注が増え、イベント販売にも柔軟に対応し、全体的な売上増に繋がった。さらに、今年も限定個数で恵方巻を販売した。

4 クリーニング班 （作業科目） 法人各施設・官公庁・企業他一般向け リネンや制服等

新たに児童発達支援センターの職員制服を受託し、売上増に繋がった。利用者の休憩室や食堂を増築し環境整備にも努めた。新型コロナウイルス感染拡大による臨時作業班体制にも柔軟に対応できた。洗濯機や乾燥機等、大型機械の老朽化に伴う入替えも計画的に進めている。

5 主な年間契約先

作 業 班	主な作業内容	納品・作業場所	委 託 先
園 芸 班	花壇管理（年間）	ハツ並公園他 7 ヶ所	鳥栖市
	花壇管理（年間）	どんぐり村園内	どんぐり村
	花壇管理（年間）	環境課へ納品（200 ケース）	吉野ヶ里町
	花壇管理	フレスポ鳥栖アーケード横	まちスポ鳥栖
	除 草	フレスポ鳥栖内調整池	大和リース
	花壇管理	入口付近花壇植栽	コスモスの園
	環境整備	敷地内花壇・駐車場除草	若楠療育園
	環境整備	敷地内花壇・除草作業	若木園
	花壇管理	入口付近花壇植栽	アマゾン
	花壇管理	鳥栖北公民館植栽	鳥栖市
	空家・空地管理	市内・吉野ヶ里町・みやき町	私有地（3 件）
椎茸業務班	清 掃	児童発達支援センター	若楠療育園
	農地管理	原古賀町	私有地
	洗 車	もしもしネット公用車（月 2）	もしもしネット
	商品出荷	鳥栖チルドセンター	TLS トライアル
就労移行班	清 掃	中央公園他 15 ヶ所	鳥栖市
ク リ ー ニ ン グ 班	制服・リネン	療育園・センター	若楠療育園
	制服・リネン	若木園	若木園
	職員制服	児童発達支援センター	若楠療育園
	作業着	コカ・コーラ鳥栖工場	コカ・コーラ

6 作業班別売上実績

作 業 班	売 上 額
園 芸	22,262,978 円
加 工	6,913,236 円
クリーニング	27,738,341 円
業務受託 菌床椎茸	6,029,022 円
業務受託 就労移行	4,615,350 円
合 計	67,558,927 円

7 工賃支給実績

就労移行支援			就労継続支援 B 型		
月	支給人数 (人)	支給額 (円)	月	支給人数 (人)	支給額 (円)
4	10	218,917	4	52	981,823
5	9	217,018	5	51	991,593
6	8	425,376	6	52	1,964,395
7	9	221,471	7	52	957,822
8	9	228,776	8	51	912,120
9	9	221,588	9	50	940,922
10	8	217,866	10	52	1,022,601
11	10	440,887	11	52	1,967,739
12	11	222,102	12	52	1,057,555
1	8	170,256	1	51	864,016
2	8	193,931	2	51	846,492
3	10	681,314	3	52	3,065,519
合計	109	3,459,502	合計	618	15,572,597

就 労 移 行 支 援 事 業	平均工賃	31,739 円
就労継続支援B型事業	平均工賃	25,239 円
合 計 平 均 工 賃		26,179 円

Ⅳ 地域社会との交流

1 就労移行アセスメント

利 用 者	市 町 村	期 間
27 歳・女性	鳥栖市	4 月 19 日～4 月 21 日 (3 日間)
18 歳・女性	みやき町	7 月 19 日～7 月 21 日 (3 日間)
18 歳・男性	みやき町	8 月 2 日～8 月 4 日 (3 日間)
18 歳・女性	鳥栖市	8 月 16 日～8 月 18 日 (3 日間)
18 歳・男性	鳥栖市	9 月 6 日～9 月 8 日 (3 日間)
18 歳・男性	上峰町	10 月 4 日～10 月 6 日 (3 日間)
18 歳・男性	基山町	10 月 25 日～10 月 27 日 (3 日間)
16 歳・女性	鳥栖市	11 月 4 日～10 月 6 日 (3 日間)
17 歳・女性	みやき町	11 月 8 日～11 月 10 日 (3 日間)
18 歳・男性	鳥栖市	11 月 15 日～11 月 17 日 (3 日間)
15 歳・女性	鳥栖市	12 月 1 日～12 月 3 日 (3 日間)
19 歳・女性	鳥栖市	12 月 6 日～12 月 8 日 (3 日間)
18 歳・男性	みやき町	12 月 13 日～12 月 15 日 (3 日間)
17 歳・男性	鳥栖市	12 月 20 日～12 月 22 日 (3 日間)
18 歳・男性	鳥栖市	3 月 22 日～3 月 24 日 (3 日間)
43 歳・男性	佐賀市	3 月 22 日～3 月 24 日 (3 日間)

2 実習生

学校名	期 間	実 習 生
中原特別支援学校	6 月 7 日～6 月 18 日	高等部 3 年生・男子 1 名 高等部 2 年生・男子 1 名
中原特別支援学校	11 月 29 日～12 月 3 日	中学部 2 年生・男子 2 名 女子 1 名

3 ボランティア

名 称	主な活動内容	人 数
作業ボランティア	園芸及び椎茸班の作業	2 名

4 交流活動

- (1) ほんげんぎょう (1 月 9 日)
- (2) 観梅会 (2 月 28 日) ※梅まつり中止
- (3) グリーン教室 (各地区まちづくり推進センター・近隣小中学校 等)
- (4) フレスポグリーンファーム (市民活動ネットワーク連携、フレスポ歩道花壇管理)

5 見学者

機関・団体名	期 日	人 数
九州国際高等学園 (職場見学)	1 月 18 日	3 名

V 総 務

1 職員状況

職 種	施設長	事務員	調理員	サービス管理責任者	就労移行			就労継続 B 型			定着	合 計
					生活支援員	職業指導員	就労支援員	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	就労定着支援員	
02 年度 末	1	1	※4	1	1	※2	1	1	10 ※10	1	※1	17 ※17
03 年度 末	1	1	※4	1	1	※3	1	1	10 ※10	1	※1	17 ※17

※は短時間職員

2 職員研修

(1) 園内研修

研 修 名	場 所	期 日	参加職員
就労ミーティング	多目的ホール	隔月 (年 6 回)	もしもしネット 移行・定着職員
「発達障害者の就労支援」 佐賀県発達障害者就労支援 センター SKY センター長 五所 朱里 氏	多目的ホール	10 月 8 日	もしもしネット 移行・定着職員
SELP チャレンジ with コロナ ～未来に向けた SELP の挑戦	多目的ホール	3 月 18 日	全職員

(2) 外部研修

研 修 名	場 所	期 日	参加職員
佐賀県相談支援従事者初任者研修	アバンセ	7月7日	高崎 知洋 田口 揚児
企業見学	コルディアアーレ農園	7月12日	高崎 知洋 田口 揚児 鈴木 一也
創作体験ワークショップ アート体験プログラム	上峰町民センター	9月26日	井上 志麻 中川 孝子
クリーニング試験予備講習会	佐賀県クリーニング 生活衛生同業組合	10月17日	岡崎 皇太郎
佐賀県障害福祉サービス事業者等 集団指導	ほほえみ館	11月16日	中村 裕之 鈴木 一也
社会保険事務講習会	サンメッセ鳥栖	2月13日	馬場 昭江
社会保険事務講習会	サンメッセ鳥栖	3月4日	馬場 昭江

3 防災管理

防災計画をもとに年3回の防災訓練を実施し、7月には緊急連絡網を使った伝達訓練、10月には消火避難訓練を行った。3月にはクリーニング棟でも地震を想定した避難誘導訓練を行い避難経路や集合場所の確認を行った。

また、クリーニング棟の増築に伴い、全棟の消防設備点検と、消防署への確認・指示を仰ぎ整備を行った。

4 施設設備及び環境の整備状況

- ・クリーニング棟スポットエアコン設置
- ・クリーニング棟増築工事（食堂・休憩室・事務室）
- ・クリーニング棟エアコン設置（増築に伴う）

5 寄付

ご 芳 名
・みつばの会 様 ・篠原工務店 様 ・佐賀県共同募金会 様 ・アマゾン 様

6 苦情報告

No.	内 容	対 応	解 決
1	・利用者の保護者より、送迎時に自宅玄関で、ご家族が出て来られるまで利用者に付添わず、発車したことにに対する苦情。	・本人及びご家族へ謝罪を行う。 対応としては、ご家族が出て来られるまで一旦待機。必ず下車して、ドアの開閉及び確実に引継ぎを行うこと。不在の場合、上司への連絡へ対応を仰ぐ等をカンファレンスにて確認、職員全体で情報共有を行った。	済・未
2	・利用者の保護者より、過去の事例から職員の言動、施設の対応への不満や不信感を訴えられる。	・苦情解決委員会として、第三者委員及び行政や計画相談、キャッチも交えて対応中。施設側として不安や不満を抱かせてしまったことへの謝罪を行う。記録に基づいて、説明と今後施設としての支援及び対応方法を書面にまとめ提示している。	済・未
3	・敷地内駐車場を送迎時乗降場所として使用させていただいている、みやき町中原庁舎より利用者に対して、館内飲料自販機のごみ箱を蹴って破損させたことにに対する苦情。	・即日、職員が現地で確認を行い謝罪した。対応として、利用者の入館が必要な場合、保護者か職員が必ず付添うこと、定期的な現地確認を行うことを書面で提示し、承諾していただいた。	済・未

7 虐待報告

No.	内 容	対 応	解 決
1	な し		済・未

もしもしネット

I 障害者就業・生活支援センター事業の実施

安定した職業生活や自立を目的として、就業及びこれに伴う日常生活、または社会生活上の支援を必要とする障害者に対して関係機関と連携し、障害者及び事業主等に必要な助言や支援を行い、雇用の促進及び職業の安定を図った。

1 令和3年度障害者就業・生活支援センター事業実施状況

(1) 障害種別・就業状況別の支援対象障害者（登録者）数 (名)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
		うち重度		うち重度			
在職中	27	5	165	36	103	8	303
求職中	14	2	32	9	60	6	112
その他	1	0	9	0	0	0	9
合計	42	7	205	32	163	14	424
R2 年度	42	8	225	45	159	15	441

(2) 支援対象障害者に対する相談・支援件数（手段別） (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
センターへの来所（本人・ほか家族等含む）	20	110	107	3	240
電話・メール相談（本人・家族のほか関係機関等の電話も含む）	158	1,275	823	32	2,288
職場訪問（定着支援ほか、職場実習支援含む）	56	831	379	16	1,282
家庭・入所施設への訪問	7	92	16	8	123
その他（ハローワーク同行訪問、各種手続き、病院受診同行、ケース会議他）	63	132	229	10	434
合 計	304	2,440	1,554	69	4,367
R2 年度	479	2,709	1,643	100	4,931

(3) 事業所に対する相談・支援割合（内容別） (件)

雇入れに関する相談・支援	326
雇用する障害者の職場適応・職場実習に関する相談・支援	1,166
雇用する障害者の生活面に関する相談・支援	415
障害者の雇用支援制度に関する相談・支援	38
その他	35
合 計	1,980
R2 年度	2,477

(4) 職場実習のあっせん件数 (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R3	1	17	10	1	29
R2	2	15	5	0	22

(5) 就職件数及び就労支援継続A型事業所への就職件数

＜一般就労＞ (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R3	4	31	27	1	63
R2	4	26	18	2	50

＜就労継続支援A型＞ (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R3	2	6	12	0	20
R2	5	2	7	0	14

(6) 職場定着率・・・1年経過時点 (%)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	平均
R3	50	80.8	70.6	100	75.5
R2	50	87.1	66.7	100	80

II 研修等の受講

- 令和3年度就業支援基礎研修 9/8 9/9 9/10
(於：佐賀職業能力開発センター 田脇)
- 令和3年度障害者就業・生活支援センター九州・沖縄ブロック経験交流会議 11/9
(於：Web 開催 田脇)
- 全国就労支援ネットワーク 全国フォーラム 7/10
(於：Web 開催 小川)
- 発達協会セミナー「発達障害とうつ病、双極性障害の併存」 6/22
(於：Web 開催 小川)

- 5 就業支援実践研修 精神障害コース 11/18 (於:長崎ブリックホール 田脇)
- 6 就業支援実践研修 発達障害コース 11/22 (於:福岡自治会館管理組合 権藤)
- 7 日本知的障害者福祉協会 相談支援・就労支援セミナー 12/7 (於:Web 開催 全員)
- 8 就労支援フォーラム NIPPON 12/17 12/18 12/19 (於:Web 開催 全員)
- 9 明治安田こころの財団 発達講座 基礎から学ぶ発達障害(神経発達症) 2/12
(於:Web 開催 小川)

【もしもしネット・グリーンファーム山浦就労移行 合同勉強会】

・4/23 6/4 8/6 12/10 3/11 (全5回)

参加者: B型・就労移行職員 もしもしネット (各回 約16名)

内容: 各回テーマを設定しケース検討、個別支援計画作成等の実務研修、手話講習ほか
(於: グリーンファーム山浦多目的室)

Ⅲ その他

1 関係機関との連絡会議の開催

令和3年10月8日 グリーンファーム山浦 多目的室

参加機関: 総合相談窓口 就労継続支援B型事業所 (計15名)

講 義: 「発達障害の就労支援」

佐賀県発達障害者就業支援センターSKY センター長 五所 朱里氏
一般就労における発達障害の支援・特性理解、事例検討
・センター実績報告

2 在職者交流会の実施

円滑な就業生活と職場定着を目的とし余暇活動の一環とした交流会の開催(年4回)

- ・職場での人間関係、リラクゼーション方法、自立に向けての調理実習等
- ・6月、9月、12月、3月での計画を立てていたがコロナウイルスの影響により人数制限、感染対策を講じ野外で2回の開催になる。

○6月5日

「働くために必要な力・ストレスとの向き合い方」(於: グリーンファーム山浦)
仕事上の悩み等についてのグループワーク・寄せ植え体験 (計15名)

○12月11日

「リラックス法～ストレッチ体操」 (於: 吉野ヶ里歴史公園)
リラックスを目的としたストレッチ体操 担当者との面談他 (計25名)

3 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

4 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

IV 総括

令和3年度は新規登録者70名（身体6名・知的26名：うち13名は特別支援学校卒・精神37名・その他1名）、就職支援のべ71名、退職等対応のべ33名の他、普通大学等、若年者における発達障害者の対応、それに伴う家族・生活支援、支援学校のみならず普通学校へ出向き進路に関する相談、講師等幅広いニーズが求められ、世の中の動きとして発達障害に関する理解や関心も年々大きくなっていることを感じた。また、新規の相談において、中核で働く世代でもある中高年のうつ等の支援も多くあり、コロナ禍での経済状況による影響を感じる一年であった。障害種別として精神障害者の相談が今年度も圧倒的に多く、発達障害の二次的要因、愛着の問題、成育の環境も念頭に家族支援も含めて対応をする必要があり、関係性の構築や効果的な支援等、センター内で協議しながら、地域の関係機関と試行錯誤しながら進めていくような込み入った案件も幾つもあった。職場定着率において、精神障害者は昨年度より10%増の70%となり、今年度は平均で75.5%と目標を達成することができた。これを維持していくためには、本人や事業所におけるニーズの把握や環境調整、関係機関との連携を確実に行之、ケースを通して職員のスキル向上にも努める必要があると感じた。その他、今年度も東部圏域で唯一の就労移行支援事業でもあるグリーンファーム山浦就労移行とも協働し、一般就労に繋げ継続していく支援や、勉強会などを通して相互に支援力を強化することができた。令和4年度も国が政策に掲げている「雇用施策と福祉施策の連携」を意識して、積極的に連携を行い支援力を高めることで、法人として地域の信頼、貢献につながることを目指したい。